ブラジル朝日新聞
伯國聖市マニストロカルデン街一一〇九
發行所 ブラジル朝日新聞社
本紙定價年六十ミル
外國郵税共百廿ミル

マークと共に香味の賞れっこ コロムビア

極東今や爆發一歩前

蔣政權を策謀基地化
英米、對日牽制に狂亂
泰側へも最後手段行使か

（香港七日同盟）東日特電、わが陸海軍の南部佛印進駐が斷行されるや、重慶ならびに英米は俄然その共同戰線關係を異常に緊密化し蔣政權はむしろ英米の支配下に立たんことを希ふに至り、英米また重慶政權を極東におけるその參謀本部とし、對日牽制策謀の基地と化しつゝある

【バンコック七日同盟】タイ國の滿洲國承認は五日正式に發表され、各方面の注目を浴びてゐるが、殊にタイ國内にあつて依然抗日勢力の中心となつてゐる華僑およびタイを飽くまで自國陣營に繋ぎ止めんと凡ゆる努力を拂つて來た英米勢力に對し重大な衝動を與へたものといへよう、しかしてタイ國の滿洲國承認に對して英米および蔣介石側が如何なる態度に出るかは最も重視されるところであるが、消息筋の洩らすところではすでに彼等はタイ國政府に對し抗議を提出してゐると傳へられる、即ちタイ國が東亞新秩序の一員としての强固な存在となるのを極度に虞れる彼らはタイ國を牽制するため石油または麻袋の禁輸あるいは資産凍結等の威嚇手段に出る可能性もなしとせず、こゝ數日のタイを繞る國際情勢は頗る警戒されてゐる

【東京八日UP】至急報、公報によれば帝國政府は英米、蘭印等の對日經濟封鎖合作に對する最終態度を決定したがこの合作中にはソ聯が參加してゐないと見てソ聯に對しては何らの對策をも決定してゐないといはれる

獨軍部隊 Forças alemãs em marcha

泰、未曾有の危局へ
ロンドン方面の觀測

【ロンドン八日UP】最近報によれば日本軍の南進によつてタイ國は未曾有の危局に當面するに至つた

【ロンドン八日UP】權威ある筋ではもし日本がタイ國に對し攻勢に出る場合にはタイ國は自力でこれを防禦するに違ひないが、その場合イギリスはタイ國に協力して日本のいかなる攻勢に對しても對抗するであらうと洩らしてゐる

滿ソ國境異狀なし
ソ聯側でも正式打消す

【モスクワ八日UP】ソ聯側發表によれば日ソ關係は何ら變化なく、滿ソ國境における兩國軍隊の衝突說など全然事實無根であるといはれる

赤軍を全的潰滅へ
地域的前進が目標でない
獨側の猛威益々烈化

【ニューヨーク六日同盟】獨軍司令部は六日獨ソ戰開始以來獨軍の擧げた驚異的戰果を發表したが、當地では右發表が獨軍の進出地域に關し殆んど觸れてゐない點を指摘、戰線が最近膠着狀態にあつたことを間接的に裏書したものとしてゐる、しかして獨軍の進擊が遲滯したことについては獨側でも赤軍の抵抗が極めて頑强なことを繰返し强調してゐるが、ソ聯側中立國方面でもこれをもつて獨ソ戰はソ聯側の作戰たる長期戰に移行する前兆であるとし、特に東部戰線が今後一月足らずで冬の狀態に入ることおよびウクライナの小麥がすでに收穫期に入り獨軍が今後極めて短期間にウクライナの全土を征服しても赤軍の焦土戰術で殆んどこれを獲得することは出來ないことを擧げてゐる、これに對し獨側では對ソ戰の目標は地域的前進ではなく赤軍の全的潰滅にあることを强調してをり、この限りにおいては今次發表の戰果や第一次總攻擊後の發表に比し驚くべく增大してゐることは第二次攻擊の目標が前進でなく寧ろ赤軍の潰滅におかれたことを物語るものとしてゐる

【ベルリン八日UP】至急報官邊筋の傳へるところによるとスモレンスク戰線で獨軍は新規大攻勢に轉じたが、今回の作戰は頗る大規模なものだといはれる

濠洲周邊を巡航
米艦專ら示威態勢

【ブリスベン六日同盟】目下ブリスベン碇泊中の米練習艦隊司令官タフフインダー少將は六日記者團に對し次の如く試つた

戰爭の續く限り米海軍は今後も屢々ブリスベンを訪れるであらう、巡洋艦は單に燃料、食料などを補給するためにこゝに立寄るのだから恐らく濠洲の他の港に入港することはないであらう

一方ヒューズ濠洲海相は濠洲周邊で他の米艦が巡航中である旨示唆し次の如く述べてゐる

米巡洋艦がブリスベンを訪れたことは北方の國々の注目を惹いてゐる、現在ブリスベンに入港してゐる米艦は巡洋艦ノーサンプトン號およびソールト・レーク・シチー號の二隻であるが他にも恐らく巡航してゐるものと信じてゐる

如何なる事態にも万全の用意あり
濠洲海相、河相公使に豪語

【上海七日TO】メルボルンからの報道によると濠洲政府軍事最高委員會は昨六日參集の上極東情勢を檢討した由である、その會議中ロバート・ゴルドン首相は河相達夫駐濠日本公使の訪問を受け何事か要談を行つたがその內容は不明である、當地官邊要人の意向を綜合するに、ゴルドン首相と河相公使との會談內容は極東情勢に關するものであることには一點疑ひなく、濠海軍大臣はいかなる事態に遭遇するとも濠海軍は既に萬全の用意ありと豪語してゐる

【メルボルン八日UP】濠洲政府ウイリアム・ヒューズ海相は昨日、太平洋の平和は一に日本の態度如何にかゝつてゐると聲明、日本がもし正氣を失つてゐなかつたならこの點よく知つてゐる筈だとも言つてゐる

奥地爆擊に出發—〇〇基地 Aviões japoneses partem de uma base

チヤーチル首相何處へ
天氣晴朗にして魚餌に嚙みつく
ル大統領空うそぶく

ルーズヴェルト大統領

【ベルリン八日TO】ニューヨークからの報道はポトマツク號上から出たとしてルーズベルト大統領が頻りに國際情勢につき沈思默考を重ねてゐると傳へ、大統領は魚は盛んに餌に嚙みついてゐる、天氣は素晴らしいし漁は申分なしだとうそぶき、チヤーチル英首相との會見など何處吹く風かといはん許り、勿論ポトマツク號の行先など少しも判つてないと傳へてゐる

【ベルリン七日TO】北米合衆國官邊筋は依然としてチヤーチル、ルーズベルト會談の有無につき沈默を守つてゐるポトマツク號上からの報道によればル大統領はニューイングランド附近まで航海をつゞけたことは確かであるが、英米兩巨頭の會見は一向その形跡なく、行はれるとすれば寧ろ今日以後であらうといはれる

歐洲から空路
米侵略は容易

【ニューヨーク八日UP】米國ロータリー會員で既に多數の飛行機を英國に空輸したことのあるジョージ・ハチンソン中佐の言によると米國から歐洲へ飛行機が翔べるとすれば逆に歐洲から米國へも翔べる譯であると述べてゐるが、右は米國が空路侵略される惧れあることを立證せるものだと見られる

世界最大の殺人犯
奇妙、米議會でスターリン攻擊
共和黨議員ら絶叫

【ワシントン八日UP】昨七日上院において義務兵役期間修正案討議中共和黨議員中の長老ハイラム・ジョンソン氏は猛烈にスターリンを攻擊、卓を叩いて次の如く絶叫した時には滿場拍手喝采しばし鳴り止まなかつた

スターリン主義者とアメリカ人とはその主義その理念において絶對に相容るゝものではない

なほジョンソン議員はスターリンは世界史上最大の殺人犯人だとも極めつけてゐる

米國造船所內にまたも罷業勃發
CIO系完全に悲鳴擧ぐ

【カーニー（ニュージャーシー州）七日同盟】CIO系造船產業聯合會は六日夜半を期し、聯邦造船艦ドック會社造船部の罷業を宣した、同造船所では六千トン級巡洋艦アトランタ（九日進水の豫定）をはじめ驅逐艦六、油槽船三、貨物船二を建造中である、CIO同地方指導者ピーター・フランクは本罷業によつて約四百の勞働者が六日夜半造船所を退出、約一万の同聯合會々員勞働者は七日は出勤しないと言明してゐる、なほ同造船所は東部沿岸で最大のもので約一万七千人の勞働者を使用し、四億九千三百万ドルの造船契約を有してゐる

ムソリニ大尉
盛大な葬儀
全國民哀悼捧ぐ

【ローマ八日UP】ブルーノ・ムツソリーニ空軍大尉の埋葬式は本日ブレカツピオに於て執行、しかる後ピザにおいて盛大なる葬儀が行はれる豫定全國は一齊に半旗を揭げて哀悼の意を表してゐる

ヒ總統の弔電

【ベルリン八日TO】ヒトラー總統はムツソリーニ首相に對しその令息ブルーノ・ムツソリーニ大尉の遭遇せる不幸につき深甚なる弔意を致した

ジブラルタルで
司令官圍み會談

【マドリッド八日UP】風說によると近くジブラルタルにおいて要塞司令官ゴート子爵駐衛大使サムエル・ホーア卿モロツコ駐在フランス高官ノゲー將軍の會談が行はれる由

ノルエー沿岸へ
獨軍事基地
對英攻擊準備か

【ロンドン八日UP】當地ノルエー側消息筋の傳へるところによると目下獨軍はノルエー領內に飛行基地を新設し、又潛水艦基地も擴張、同時にノルエー沿岸防備を强化してゐるが、恐らく對英本土攻擊準備のためだと見られる

赤軍捕虜三万
ウクライナ戰果

【ベルリン八日UP】至急報獨軍司令部發表によるとウクライナ戰線においてこゝ一日間にソ聯第六軍司令官以下三万の赤軍將兵が捕虜となつた

アソレス島を死守
葡、大規模な軍事計畫實行
大統領、島民を激勵

【リスボン六日同盟】カルモナ、ポルトガル大統領は六日アソレス群島（北大西洋ポルトガル領）のホルタ港を訪問島民に對して

或る種の大規模な軍事計畫が實行されんとしつゝある現在のホルタ港の軍略的使命は非常に重要性を增大しつゝある

と演說し島民は祖國に殉ずべき義務を有する旨を强調した右は万一の事態發生の場合アソレス死守の覺悟を聲明したものと解される

泰佛印國境
確定委員
十二日初顏合せ

【サイゴン七日同盟】矢野公使以下の泰佛印國境確定日本側委員は泰佛印兩國委員の參集を待つて來る十二日頃、三國委員の初顏合せを行ひ、國境確定地區の分擔および圖上確定より協議を進めることゝなつた

【サイゴン八日UP】佛印タイ國々境確定のため矢野眞氏を首班とする日本代表一行は本日當地に到着した

日軍約五万
佛印基地占據

【ロンドン八日UP】目下南部印度支那に進駐を了した日本軍兵力は約五萬と見られ、佛印飛行基地八ケ所は既に日本軍の占領するところであるといはれる

英本國の援助無用
飽く迄で自力防衛
印度紙「アザト」力み返る

【上海七日TO】上海で發行されてゐる印度紙「アザド」は印度自衞の防衞のため何らの英國の援助を必要としないと聲明してゐる、同紙は印度にある軍需工場は印度の需要を充分充たすに足り、優秀なる印度兵の裝備を完成するに足るから、それだけで充分印度を防衞するに足ると主張してゐる、それ故に英國が印度に求めるところは結局印度を防衞するとは言ふもの丶實際は印度における英國の地位をより一層支配的ならしめんがための工作を牢固にしやうとするに他ならぬと論じてゐる

阿片の密輸
價格四十万ドル

【上海七日TO】バンコック政府はシンガポールからホンコンにおける吸飲者の消費にあてるため價格四〇万ドルに相當する量の阿片を輸入したこれらの阿片は日支事變勃發後密輸入によつてのみ漸く供給をつゞけてゐたものである

駐日ソ大使
商相と要談

【東京七日同盟】駐日ソ聯大使スメターニン氏はかねて左近司商相と會談したき意向をもつてゐたが、七日商相を官邸に訪問重要會談をとげ辭去した

義務兵役期間
十八ケ月へ
米、上院で可決

【ワシントン八日UP】昨七日上院は四四票對二八票をもつて義務兵役期間を十八ケ月とする修正案を可決した

對佛印經濟關係
蓑田總領事ら懇談

【サイゴン七日同盟】東日特電、蓑田總領事は六日總領事官邸に邦人商社代表十余名を招致して日佛印經濟協定を實施促進、皇軍進駐後における南部佛印の財政經濟問題に關し種々懇談した

極東航路の
海上保險率暴騰

【ストツクホルム七日TO】極東航路における海上保險率暴騰の報は特にホンコン、フイリッピン、シンガポール、蘭領印度、英領印度間に甚しいことを傳へてゐる

…全なマンヂオカ粉
蘭印産澱粉の代用品
米農務省、專門技師を派遣

…國農務省技師フラサーバー並に駐伯米大使館商務官アーヴィン・キラー兩氏が客路來聖したが兩氏は聖州のマンヂオカ澱粉の對米輸出につき調査する計畫である、サーバー技師の談話によると同技師は米國農務省より南米視察の命をうけ、ブラジル、アルゼンチン、チリ、ペルー、パナマの各國を歷訪、各國の對米輸出品を調査するもので、伯國產澱粉の輸出が有望な點について氏は次の如く語つてゐる

米國は澱粉の大輸入國である、從來米國の消費する澱粉は主として蘭印よりの輸入に仰いで來たが、汎米貿易促進の建前から米國は今回ブラジルのマンヂオカに目をつけたわけである、リオ滯留中僅かの時日を利用してマンヂオカ工場を見學伯國農務省技師連の意見も聽いた、聖州には一週間滯在の豫定だが、前述の通り米國は澱粉の大消費國であり、一方ブラジルは澱粉生產を悉く內國消費に向けてゐる、當然その余剩產額は對米輸出に振り向け得る筈である

輸腹不足による運輸難で困りはせぬかとの質問に對してはそんな心配はない、問題は伯國產が米國工業使用原料としてうまく合致するか詰りその品質如何の點にあると語つた、なほ同技師はクロス米國領事の案內で州政廳にコスタ執政官、コレイア農務長官を訪問、農務長官は州農務局技師に命じてマンヂオカ工場施設を案內せしめることとなり、昨八日カンピーナスリメイラ、アララス、ソロカバ各地視察旅行に出發した

聖市各警察の家賃
年々八百四十コント
大規模な警視廳本署建築の計畫

アカシオ・ノゲイラ聖市警視總監は管下の各施設を巡視した結果、その改善の必要を痛感、サントス監獄、聖市各警察分署その他奧地警察特に聖市鑑識課の建物など狹くて不自由な點に留意、最近警視廳本署敷地として廣大な土地を購入したので、こゝへ警視廳本署は勿論その他部局例へば保安課、鑑識課、法醫課などを全部網羅する計畫を立てゝゐる、現在州政府が聖市各警察の借家料として拂つてる金額は年々八百八百四十コントの巨額に達してゐるがこれが節約される計算となる、ノゲイラ總監はそこでリマ警視に命じ右計畫の立案を命ずる一方、州交通土木部技師にも建築計畫を委囑した

伯國の聲を全世界に
聖州最初の短波放送
ラヂオ・チフゾーラ開始

聖市の有力放送局ラヂオ・チフゾーラは既に創立七年となるが、今回長波放送以外に短波放送開始の計畫を立て一般の期待と注目をうけてゐる、同局では創立以來久しくこの短波放送を計畫し、これによつて全世界にブラジルの聲を傳へようとはかつて來たものだが、遂にこの古い夢が實現の運びとならうとしてゐる、ラヂオ・チフゾーラ支配人のデシオ・パシエコ氏の談によると

聯邦政府は多數の短波放送出願者の中から本社を常に一番に考慮してくれてゐる本社は既に去る七月中に試驗放送開始の豫定計畫だつたが、注文した眞空管の到着が遲れ實現出來なかつたこゝ數週間中に全伯國および世界は聖州の聲を聽ける筈だ、廿五キロの强力放送で世界で十五位中に入る、

工事はソシエダーデ・テクニカ・パウリスタ社で請負ひ伯國著名の電氣技師オーメン・デ・メロ氏が擔當した

なほチフゾーラ側ではスマレーの敷地內に二大スタヂオおよび八百人收容の聽衆席設立の計畫も立てゝゐるが、完成の曉は聖市隨一の近代的快的設備を誇る放送所が開設されるわけである

ヴアルガス大統領
文藝院會員に當選

【リオ七日】伯國文藝院は本日午後五時本年度最大の行事たる故アルカンタラ・マッシャード博士の後任選擧を行つた、文藝院內部では右後任候補にヴアルガス大統領を推薦すべき說が擡頭したゝめメノチ・デル・ピツキヤ、マルチンス・オリベイラ、パジリオデ・マガリヤンエス・アゼレドの補者は大統領推薦の意味から立候補を辭退、一方大統領は立候補を受諾し無競爭で當選した、本日の集會にはレヴイカルネイロ會長始めマセド・ソアレス、クラウヂオ・デ・ソウザ（先年渡日した詩人）氏ら會員廿八名出席、オクビオ・マンガベイラ、ギユレルメ・デ・アルメイダ氏ら六名は手紙で投票アフラニオ・ペイショット氏ら五名は棄權したが、その中エリオ・ローボ兩氏は目下國外にゐる、かくてヴアルガス大統領は三十三票の贊成投票で當選せる旨發表され滿場の喝采を博した、なほ投票中に一票の白紙があつた、これによつて文藝院會員定員四十名全部揃つたが、ヴアルガス大統領はいつでも機會を選んで新入會員として就任できることゝなつた

煩いカラピショ
工業に利用法研究中

【リオ七日】カラピショはアマゾン地方のみならずバイヤ全州等に群生してる極めて普通な植物であるが、最も多い地方は主にサンフランシスコ河流域である、良質の纖維がとれカンバス、俵裝用として最適でありその莖はセルローズ原料にもなるが、現在は火矢にしか使はれてゐない、ブラジルでは自生するに委せてカラピツシヨの栽培などまだ行はれてないが、目下農務省農產奬勵局側では專門技師に命じてその利用法を研究中でその結果有用な農產品とすべく考慮中である、バイヤ、聖州、リオ、ペルナンブコ、南大河各方面でもカラピツショの工業化には囑目しその利用を要望してゐる

世界的不況尻目に
州の聯邦稅收累增
七年間に四倍余に達す

現下の異常な狀勢、不況にも拘らず聯邦稅收入は一向減退しないが、聖市聯邦稅務署長ツビー・カルグス署長の談によると聖州における聯邦稅收入の狀態は次の通りである

當稅務署の徵集額は毎年增える一方である、戰爭による世界的不況もこの面では一向影響はない、昨年度に比べて本年度增收は四万七千コント余に上る、これは結局聖州の躍進振りを示すものだ、稅務署員は昔と一向變らず目下大多忙を極めてるが、一方納稅者は一九三三年の一二二、三五一名から昨年は二五〇、九八〇名と倍加してゐる、從つて稅收入も素晴しい增加振りで、一九三三年度の一〇六八九二コントから昨年は遂に四七四、九〇六コントと四倍以上になつてゐる

カサパーバ
步兵旅團長新任

在カサパーバの聖州第二軍關所屬步兵旅團長は今までペードロ・ピンニヨ大佐が臨時に在任したが、今回レナート・パケツト將軍が旅團長に就任去る七日同地において第二軍團長マウリシオ・カルドーゾ將軍始め州警兵司令官、州政府代表ら列席の上盛大な就任式が擧行された

米洲海運の
打開策はかる

【ワシントン八日UP】汎米經濟諮問委員會では昨日米洲各國間の海運問題に關し重要協議を遂げ、右決議事項を早速米洲廿一ケ國に交付したが各國政府の承認するまでその內容は發表されぬことゝなつた

化學工業會社新設
官民合同で統制會援護

【東京七日同盟】商工省では化學統制令の設立に並行して重要化學工業部門を綜合包括した半官半民の特殊會社を新設することゝなり、右に關する重要化學工業振興株式會社（假稱）法案を來議會に提出すべく準備を進め、この程一應の成案を得るに至つた、重要化學工業株式會社は前議會に法案の提出が見合せとなつた有機合成事業振興株式會社にもとづき、さらにこれを强化したもので、その目的は化學工業統制令の活動を積極的に援護せんとするにある、なほ資本金は一億圓程度で、出資比率は政府七、民間三位とするはずである

近衛首相
參內

【東京七日同盟】近衛首相は六日參內、木戶內府と要談その後　天皇陛下に拜謁仰せつけられ一般政務につき奏上退下した

在支和蘭人に
引揚げ命令

【北京八日UP】支那の日本軍占領地帶內にあるオランダ人は本國政府の訓令で已むを得ざる滯留理由がない限り引揚げるべき旨通告をうけた

資產凍結の
損失塡補
政府救濟金支出

【東京六日TO】政府は日本資產凍結の結果招來せらるべき輸出上の損失塡補のため五千万圓の救濟資金支出を決定した

定例次官會議

【東京七日同盟】定例次官會議は七日首相官邸に開催及川興亞院總務長官心得ならびに山本外務次官より支那および佛印におけるわが現地諸機關に關する今後の方針につき說明あり、次いで三浦農林次官より農作物の狀況について報告散會した

石油增產に拍車
ボリビア政府資金支出

【ラパス七日UP】ボリビヤ經濟相フイルメス氏が議會へ送つた報告によると近く米國から石油採掘機械が到着、これによつて同國の輸出石油增產に拍車がかけられることゝなつたが、なほボリビヤ政府は同國內石油增產費として二千六百万ボリビアノ支出を決定してゐる

よくきく　のみよい
肝油ハリバ

DIANA
レストラン・喫茶室・バール・ロチセリ・室內オーケストラ・優雅な雰圍氣
聖市に於ける唯一の安息娛樂所
パン製造致して居ります
夜は一時まで營業
R. B. de Itapetininga, 111

七の電話
至急讓りたし、聖市オンゼ・デ・アゴスト街二八八番二階
藤井商事
電話三-四九三九

ピクニツク用
お辨當
タパチンゲーラ七九
だるま食堂
電話二-二五七八

賣アルマゼン
セツコス・モリヤードス、住宅付格安に讓り度し、場所良好、顧客多し、家賃安し
Rua Santo Antonio, 845
Bela Vista

寫眞機賣度
營業用大型中古9×12=5ケ、18×18=8ケ、18×24=4ケ、右格安に讓り度し、問合せは下記へ
T. Kosaka
Est. Guararapes N.O.B.

大量入荷

神經痛　リユーマチス　特効藥

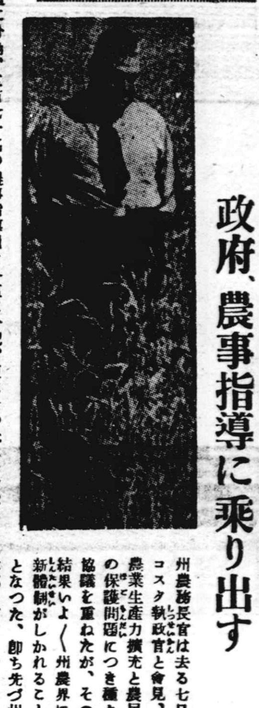
塩酸シノメニン

世界各國特にブラジル國に特有とも云ふべき
神經痛各症
急性慢性リユーマチス
に特効藥として何にもなき今日、我が
鹽酸シノメニン
の輸入許可により內外人共にあの苦惱より脫し得る事は御同慶の至りである

ブラジル國總代理店
A—O海興　原商會
聖市郵函二〇二二
地方取扱所　日伯社
聖市郵函三七五

增産に拍車

先づお百姓さんの擁護
州農界にも斷然新體制
政府、農事指導に乗り出す



州農務長官は去る七日コスタ執政官と會見、農業生産力擴充と農民の保護問題につき種々協議を重ねたが、その結果いよ〳〵州農界に新體制がしかれることとなつた、卽ち先づ州を三十の農區に分轄、二百七十名の農事指導員を各區に分配、更にその上にサンパウロに本部を有する增産奬勵委員會の技師をも各地に派遣せしめ增産に拍車をかけるとゝもに農民の立場を強化しやうとするものである（寫眞はコスタ執政官）

白球戰線〝漸く酣！

戰雲各地に動き
球兒の意氣軒昂
〝全伯野球〟愈よ後二旬

體育祭典の中樞競技、第六回全伯野球大會はいよ〳〵來る八月廿九日より三日間、興奮の餘波をまき起すことになるが、本大會の出場權を目指して今や全伯は豫選大會の球興いよいよ如はりつゝある、出場權をめぐつて全豫選區の大勢を見るに

前年度優勝のサンパウロ軍は大旆死守すべくナイン默々と練磨に輪をかけ、殊に本年は若手選手の活躍に大きな期待をかけてゐるサントス軍は南聯豫選に於てレヂストロを退けて晴れの代表權を獲得、藤倉選手の歸來にナインは一段と活況を呈してゐる、以上二チームの他は各地方豫選を前にして互ひに鍛を狙ひ中央進軍の作戰に余念がない

▽ノロエステ地方は來る十六日よりチエテに於て昨年代表チエテ、ビリグヰ、アリアンサの三古豪とグワララペス、アラサツーバの二新鋭　新舊交々入亂れて大會戰の火蓋を切らうとしてゐる

▽パウリスタ線ではバストスが依然たる強味を見せ、この牙城に迫るマリ、ア、ポンペイア、果して昨年の如き大番狂せが再演されるか、ポンペイア原頭には今や雲低くこもつてゐる

▽ソロカバナ線、長驅來征のパラグワスーの參戰でこの地方の情勢はいよ〳〵混沌となつた、昨年のア・マツシャードの地位保持はいよ〳〵困難を加へ、プ・プルデンテ、パラグワスーの三巴戰、伏兵アナスタシオの若さ、ウエンセスラウの老巧共に大會の趨勢を混亂に陥れんとしてゐる、十日から三日間のこの大會はノロ線と共に全伯隨一の激戰地とならんとしてゐる

▽北パラナ、早くも全伯水準に達した北芭球界の代表權獲得には血と汗の努力が必要だが、管下には正に群雄割據、昨年覇者サンタ・マリアナ軍の陣營をロンドリーナ、トレスバラス、カンベラなどが脅かしてゐる

これでよいのか？

一向止まぬ國賊行爲
日本歸り狙ふ圓札買ひ

未だにあとをたゝぬ圓紙幣の闇取引き！あらびや丸、もんてびでお丸の二船に乗込めなかつた日本歸りのうち大多數は未だに各邦人旅館や郊外で待機してゐるが、これらを狙つて圓紙幣の賣込が盛んに行はれてゐる模樣で、歸國者も圓賊行爲とは知りつゝも、つい賣手の甘言に迷はされ一圓が二ミル九百から三ミル二百といふ安値に怨もからんで買込む仕末であり、最近にも何處からともなく二十万圓の圓札が當地に舞ひ込み買手の出現を待つてゐる由である

なほ日本內地では圓紙幣攜行者の上陸と同時に嚴重に其の出所を追求、それとゝもに出先官憲とも連絡をとり圓紙幣の賣買など國賊行爲を敢えてする在外邦人を探求これに鐵槌を加へる手筈を進めつゝあるといはれてゐる

長期戰

◆…ブラジル新聞記者協會ではゼツリオ・ヴアルガス大統領を名譽會長に推薦した

◆…ワシントン政府時代の交通相ヴイツトル・コンデル氏は去る六日リオ市サンジヨゼー病院で逝去した、故人はサンパウロ法科大學出身でサンタ・カタリナ州より數回に亙り聯邦代議士に打つて出た有名な親日政治家である

◆…新駐伯カナダ公使としてジャン・デジー氏が來る二十七日着伯する

◆…新任原總領事の歡迎會は去る六日午後七時からホテル・テルミヌスで催されたが、參會者百名に近く近來にない盛會であつた、原さんは非常に溫厚な紳士で葉卷一本とるにも女房役の成瀬さんに「どれがうまいですか」など相談を持ちかけてるところなど微笑ましい圖だつた

◆…故閑公遺愛の冷房器五個がこのほど荻外莊へ送られた、國公最後の夏をまもつた形見の品が複雜多岐な內外情勢と敢鬪する近衛さんに涼風を送ることになつたもの

◆…太宰府天滿宮の朱の樓門をこのほど廿年ぶりで大掃除したところ、二階から五百余の雀のミイラが出て來た、隙間から入つたもの出るに出られず餓死したものらしい

◆…釜山で新體制下の娘展ではいけないとあつて、釜山府總力聯盟では〝娘の展覽會〟を開き娘の幸福、服裝、會計帳、言葉遣ひ、健康、結婚、お稽古ごとなどの內容で新時代のお孃さんたちに大いに警告するといふ

衛生檢査にも電擊戰
物ぐさ夫人に遠慮なしの…お灸…
不合格は五十ミルの罰金

市衛生局では市民の保健に不斷の努力を續けてゐるが、最近に於ても全聖市に亘つて電擊的な衛生檢査を行つてをり戶別に係員を派し虱つぶしに最嚴重に檢査、特に台所、便所キンタールの淸掃が行きとゞいてないと假借なしに五十ミルの罰金を科し物ぐさ夫人にお灸をすえることになつてゐる

國産映畫の製作、配給など

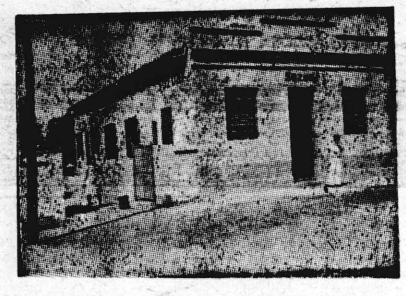
【リオ五日】新聞宣傳院映畫演劇局長主催で昨日午後三時第一回の國內映畫製作業者及び配給業者會議が催されたが今回の會議で伯國映畫規約起草準備するに決定、これによつて國産映畫の製作、配給に關する基本方針を決定することゝなつた、その結果映畫規約起草委員會を設けこれをフオンテス新聞宣傳院總裁に提出審議を仰ぐことゝなつた

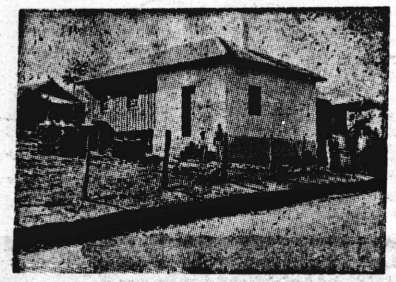
カメラ便り

ノロ線から

××プロミツソン町鈴木旅館は三十コントを投じて新築落成、去る二日町の連中を呼んで一杯祝酒を饗した

××ゴヤンベー町に乾繭工場が出來上つた、アリアンサにゐた丸茂氏が仕事をする筈で、リンス驛附近の百余家族の産繭を取り扱ひチエテのブラタク製糸に搬出するもの、總工費三十コント、三田、笠井兩氏が世話役となつていよ〳〵お蠶さんがリンスで巾をきかすことになつた（寫眞上が鈴木旅館、下が乾繭工場）





主婦のメモ
今週の食料品公定價

市統計課發表、本月八日より來る十四日までのフエイラに於ける食料品公定價は次の通りである

品名	等級	値
△アロース	特	上(キロ) 二、〇〇〇
〃	上	(〃) 二、〇〇〇
〃アグーリヤ・アマレロン	普	(〃) 一、九〇〇
〃	特	上(〃) 二、〇〇〇
〃ブラジル	上	(〃) 一、八〇〇
〃	普	(〃) 一、七〇〇
〃カテーテ	特	上(〃) 一、九〇〇
〃	上	(〃) 一、八〇〇
〃	普	(〃) 一、七〇〇
▽フエイジヨン ムラチーニヨ	特	上(〃) 一、〇〇〇
〃	上	(〃) 九〇〇
〃	普	(〃) 八〇〇
△バタタ オランデーザ	特	上(〃) 一、八〇〇
〃	上	(〃) 一、五〇〇
〃カナダ	特	上(〃) 一、三〇〇
〃	上	(〃) 一、一〇〇
△セボーラ リオグランデ	上	(〃) 四、二〇〇—五、〇〇〇
サンパウロ	上	(〃) 三、五〇〇—四、〇〇〇
アルゼンチナ	特	上(〃) 四、〇〇〇—五、〇〇〇
△アーリヨ	上	(一個) 四〇〇— 五〇〇
〃	普	(〃) 三〇〇— 四〇〇
△トマテ レドンド	特	上(キロ) 一、二〇〇—一、六〇〇

品名	等級	値
△アボブリーニヤ ブラジレイラ	一等品	(一個) 二〇〇— 三〇〇
イタリアーナ	二等品	(〃) 一〇〇— 二〇〇
△アグリオン ヴイヴアス	(東)	二〇〇— 三〇〇
△アルフアセ フランセーザ	(〃)	二〇〇— 三〇〇
セン・リヴアル	(束)	三〇〇— 六〇〇
△アボーブラ マツヅーラ	(個)	一、五〇〇—三、〇〇〇
△バタタドーセ	(打)	五〇〇—一、〇〇〇
△エルビーリヤ	(個)	四〇〇— 六〇〇
△人参	(束)	二〇〇— 三〇〇
△セボリーニヤ	(打)	三〇〇— 四〇〇
△カラー	(〃)	五〇〇—一、二〇〇
△シユーリア	(一個)	八〇〇—一、二〇〇
△コウベ・マンテイガ	(束)	二〇〇— 三〇〇
△マンデイオカ	(〃)	六〇〇—一、二〇〇
△ピメントン	(個)	八〇〇—一、〇〇〇
△ヴアーゼン	(〃)	一、〇〇〇—一、八〇〇
△マンテイガ	(〃)	一、五〇〇—一、八〇〇
△カステイラ	(〃)	一、〇〇〇—一、二〇〇
△ナス	(〃)	二〇〇— 三〇〇

ノーらぶかーふけ

火蓋切る 聖市豫選大會
實力伯仲の三球團

第六回全伯野球を二旬の後に控えて今や各地方豫選一齊に決戰の火蓋を切らんとしてゐるが、聖市豫選大會はいよ〳〵けふから新設東山球場に於て華々しく擧行される、組合せはコチア、オラトリオ、セントラルの三試合リーグ戰で、出場の

▼九日正午よりオラトリオ對セントラル
▼同午後二時半よりコチア對オラトリオ
▼十日正午よりセントラル對コチア

農村十種競技決る
スポーツで全村和樂

置忘れられた農村スポーツの建設をめざし拓殖産業組合中央會ではかねて協議中であつたが過日農村オリムピツクの名にふさはしい十種競技の種目と規則がきまつた、今までのスポーツは學生中心であり農村にはスポーツと名づけるものはなく、農村青年の體位は低下の憂ふべき現象を生じ耐久力はあるが走力、投力、敏捷力に缺けてゐるなどの缺點があげられてゐた、産組中央會の狙ひは農村に健全簡易なスポーツで全村和樂の機會を與へながら體位向上をはかり併せて食糧增産のお役にも立てようといふので競技種目も

▼宮詣で（長距離、短距離）▼石擔ぎ、俵差し▼繩飛び▼石拋げ▼溝飛び▼俵擔ぎ▼棒押し▼繩引き▼傳令競技▼自轉車競走

など農村の傳統を採り入れた十種を選定、鍛錬をはかるほか音樂、舞踊を加へ「農村和樂運動會」と名づけ今秋全國農村に實施する

西江米子孃に あ…聽くの會す

聖市白菊會では明十日午後一時半よりピーレス・レノン街七番母の會館に於て「西江米子孃に聽くの會」を催すことになつた

「滿二ケ年の本邦留學を終え先月十白無事歸伯された西江米子樣に留學生の見た最近の日本と題し、戰時下に於ける非常時日本の姿をお話して頂くことになりましたから、皆樣お知合ひの方々をお誘い合せのうえ御來聽下さいませ」と白菊會では多數の參加を希望してゐる

シネマに落す金 一年間に七億弗
これはアメリカでの話

例のギヤラツプ輿論調査所が過去一年を通じて根氣よく調査した結果によると聖林映畫業者側の發表による米國內の映畫觀客の數は每週八千万人に上るといふのは誇大に過ぎギヤラツプ調査の推定では約五千四百廿七万五千人であり觀客の年齡は五歲乃至八十五歲の各年齡に及んでゐる、昨年中の映畫館料金收入もヘイス事務所（米映畫の大御所）發表では十億ドルと稱してるがこれも七億ドル位いが眞實のところだといはれる

三チームは共に最近著しく內容充實し、前年優勝のオラトリオは新鋭勝間田投手を加えていよ〳〵強味を增し、セントラルは聖市の三強者海興、蜂谷、コチアを退けて意氣軒昂、コチアまた獨得の押しで荒波を乘り切るべく、この三巴戰は全伯野球前哨戰に相應しい熱戰となろう

市況

（八日）

品名		安値	高値
▼アロース アグーリヤ	上	四三、〇〇〇	四五、〇〇〇
〃	並	九九、〇〇〇	百、〇〇〇
ブランコ	上	九九、〇〇〇	百、〇〇〇
カテテ	特上	九一、〇〇〇	九三、〇〇〇
▼フエイジヨン ムラチーニヨ	上	四七、〇〇〇	四八、〇〇〇
〃	中		ノミナル
▼ミーリヨ アマレリーニヨ		一八、八〇〇	一九、〇〇〇
アマレロン		一七、五〇〇	一七、八〇〇
クリスタル			ノミナル
▼バタタ アマレーラ	上	五五、〇〇〇	五六、〇〇〇
ブランコ	上	四二、〇〇〇	四三、〇〇〇
▼マンヂカ粉		二七、〇〇〇	二八、〇〇〇
▼マモナ		三〇〇	四〇〇
▼棉實		三九、〇〇〇	四一、〇〇〇
▼セボーラ アメンドイン	上	二九、〇〇〇	三〇、〇〇〇
▼アーリヨ	上		ノミナル
▼砂糖 レフイナード	特上	三一、〇〇〇	三四、〇〇〇
〃	上	七〇、〇〇〇	七一、〇〇〇
クリスタル		六六、五〇〇	六七、五〇〇
フイルトラード		五五、五〇〇	五六、五〇〇
▲小麥粉			
▼珈琲（四級品）		二六、〇〇〇	
モレ		四四、〇〇〇	
ザーロ			
▼棉花		五三、五〇〇	五三、五〇〇

野菜部（コチア産組中央出張所調）（八日）

品名	安値	高値
▼トマテ特上（箱）	一六、〇〇〇	二〇、〇〇〇
▼トマテ 上（〃）	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇
▼トマテ 中（〃）	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇
▼レボーリヨ（袋）	四、〇〇〇	五、〇〇〇
▼エルヴイリヤ（箱）	一六、〇〇〇	二〇、〇〇〇
▼ピメントン（箱）	一五、〇〇〇	二〇、〇〇〇
▼バージエン（箱）	一五、〇〇〇	二〇、〇〇〇
▼ペピーノ（箱）	二〇、〇〇〇	二四、〇〇〇
▼バタタドーセ（俵）	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇
▼ボブリーニヤ（箱）	一五、〇〇〇	二〇、〇〇〇
▼コーベ・フロール（打）	八、〇〇〇	〃
▼ナス（箱）	一〇、〇〇〇	一八、〇〇〇
▼セノーラ	一、〇〇〇	一、六〇〇
▼玉子（打）	二、三〇〇	二、六〇〇

婦人病で御困りの方は是非本機で！
的確な効果 素晴しいキ、メ
イー治療機
改正定價 580$000
日・英・米・獨・墨 專賣特許
伯國總代理店 加藤商會
聖市ルア・オンゼ・デ・アゴスト二八八 郵函四三三〇 電話二－八九五三

寒さに向ひました 關東煮で一寸一杯
おたふく食堂
聖市コンデ・ド・ピニヤール街五一 出前は電話二・四七二四番へ

— Bar e Restaurante —
PAN AMERICANO
Rua Xavier de Toledo, 47 e 51
聖市上流社會人の集合所
アルモツソ コメルシアル 六ミル
ジヤンタール コンセルト 七ミル
營業午前八時より午後十一時迄

急募 大工拾數名
大至急募集す 高給、優遇す
詳細は面談亦は手紙にても可
家具建築請負 小村忠吉
聖市コンデ・デ・サルゼーダス街九十一 電話二－五九五六

特製 育雛器
聖市ピネイロス區 横井ブリキ店
ミゲル・デ・イザ、街七番 橋詰精米所先隣

電話 2-2194
御婚禮、御祝儀、お土産に
かまぼこ 惠比須屋
聖市トーマス・デ・リマ街二八三（郵函三六八）

BAR e RESTAURANTE
Tel. 4-5507 - Av. São João, 128
TAVERNA:
Rua Anhangabaú, 36
Tel. 4-2626
最高級 バール 食堂
AO PINGUIM

Bar e Restaurante
LEÃO
Av. S. João, 284
Tel. 4-4458
食事は何時も…
料理は…聖市唯一
値段は極く大衆向
郵便局の隣りです

營業種目
▼農具農藥品 アルセニコ・アルセニアト・ブランコ・デ・シユンボ 噴霧器・附屬品
▼日本食料品
▼日本化粧品
▼野菜種子
▼金物類
▼內外文房具
▼精工舍時計 柱時計、目覺時計 懷中、腕時計
▼瀬戶物類
▼有名賣藥
▼フオリンニア（日本製）
▼教科書
▼雜誌類
輸入商 羽瀬商店
S. HASE Cx. Postal, 2-A S. Paulo

東山銀行

経済と産業

本年上半期 リオ入港船舶數 昨年同期に比し 一一四万噸減

リオ港における内外船舶の出入状態は戦亂の影響を受けて夥しく減少を示した、一九四一年上半期リオ港入船は昨年同期の四、二九六、三九七トンに對し一、一四一、三一六トンを減じて三、一五五、〇八一トンに過ぎなかつた、外國船入港數は四〇年上半期の六八二隻に對し今年同期は四五一隻、内國船は同じく一、三三四隻に對し一、三九七隻であつた、外國船中アメリカ船が一二一隻から一四八隻に増加してゐるのは注目に値する、その他はすべて減少した四〇年および四一年上半期各國別リオ港入船噸數を比較すると左の通り

國籍	一九四〇年	一九四一年
ドイツ	四、四八三	一五、八二三
アルゼンチン	一五、六九一	二八、三三七
ベルギー	三九、九三四	—
チリ	一七、八四四	九、三三五
デンマルク	五一、三六六	—
スペイン	三、四七八	八九、八二一
フインランド	一四、一〇二	二〇、五四三
フランス	一九五、七一六	—
ギリシヤ	八七、一八一	五、八二一
オランダ	一六九、五七八	三三、七五七
イギリス	三七七、二〇五	一八三、九八三
イタリア	三八一、二三三	二、九〇四
日本	一三四、五七二	一二四、三七八
北米	六四九、〇四〇	七三七、九五二
ノルウエ	三六三、三五七	二五七、三二四
パナマ	九三、六三五	七〇、四五六
ポルトガル	三八、七五二	三三、八八四
スエーデン	一一〇、五五一	三五、二七一
其他	二八、五六九	五八、三九五
内國船	一、五〇〇、一一二	一、四五七、〇四四
計	四、二九六、三九七	三、一五五、〇八一

北米合衆國の輸入珈琲割當増加 總額四七七万袋増

昨五日の電報は汎米珈琲會議所がアメリカの珈琲輸入割當額を従来の割當額より二五％増加する旨を傳へてゐる、即ちさきに五％の割當増加を加えて一五、九〇〇、〇〇〇袋から四、七七〇、〇〇〇袋を増加、割當額は結局二〇、六七〇、〇〇〇袋となつた、その國別明細は左の通り（單位一千袋）

	原割當額	三〇%増加	新割當額
協定調印國			
ドミニカ	一二〇	三六	一五六
グアテマラ	五三五	一六〇・五	六九五・五
ベネズエラ	四二〇	一二六	五四六
ブラジル	九、三〇〇	二、七九〇	一二、〇九〇
コロムビア	三、一五〇	九四五	四、〇九五
コスタリカ	二〇〇	六〇	二六〇
キューバ	八〇	二四	一〇四
サルバドル	六〇〇	一八〇	七八〇
ホンヂユラス	二〇	六	二六
メキシコ	四七五	一四二・五	六一七・五
ニカラガ	一九五	五八・五	二五三・五
エクアドル	一五〇	四五	一九五
ハイチ	二七五	八二・五	三五七・五
ペルー	二五	七・五	三二・五
珈琲協定非調印國			
珈琲モツカ	二〇	六	二六
其他アラビア系珈琲			
其他珈琲	三一五	九四・五	四〇九・五
計	一五、九〇〇	四、七七〇	二〇、六七〇

戰亂の影響受け 肉類の輸出著増 一五万トンを突破

ブラジルの生産物中あるもの「は歐洲市場の喪失によつて著しくその輸出を減じたが一方却つて時局のためにその生産を増し輸出を増加したものもあり、平常あまり注意されてゐなかつたもので急に注目されるやうなものも數多く出現した、ブラジル産肉類の輸出なども時局に便乗したものゝ一つであらう

一九三五年その輸出は七二、三七〇トン、價格一一四、四二九コントであつたが、一九四〇年には戰時中にも拘らずその輸出は却つて一五二、五八〇トン、五一四、一七三コントに激増してゐる

冷凍牛肉の輸出は一九三八年一四、八九七、五七一キロであつたのが四〇年には九三、九五二、一九四キロに增加、牛罐詰は二〇、九六三、五四六キロから四六、三九六、八九七キロに著增、臟物は五、六〇〇、〇〇〇キロから七、〇〇〇、〇〇〇キロに、豚脂は一、五〇〇、〇〇〇キロから四、六〇〇、〇〇〇キロに、冷凍豚肉は一、七〇〇、〇〇〇キロから五、一〇〇、〇〇〇キロに、何れも激増を示してゐる

本年上二ケ月 州別沿岸交易高 量で減り價格で增加

ブラジル各州間の沿岸交易額は本年上二ケ月の實績は左表の通りである（單位トンおよびコント）

州	輸出 數量	輸出 金額	輸入 數量	輸入 金額
アクレ	一、四八四	三、一二一	一、二四一	四、〇〇〇
アマゾナス	二、九二〇	一一、六四七	九、三三〇	一九、八六六
パラー	八、四二六	二一、四九七	一五、九二四	四一、五七〇
マラニヨン	二、五四四	五、五六七	五、三二四	一三、一六九
ピアウイー	三七八	六九四	三、七〇五	一三、七六五
セアラー	七、六六七	一三、四七〇	一八、二七五	四五、〇五五
北大河	四九、五七二	一四、五三六	五、一五七	一二、六七五
パライーバ	一一、二八四	二五、五二〇	六、四九一	一四、四〇八
ペルナムブコ	五五、六四六	九二、一八五	三三、〇一六	七三、〇八九
アラゴーアス	二三、六八八	二四、八五三	四、八五五	一三、〇七五
セルジツペ	一七、六二五	一五、四七五	四、四五六	一三、四二一
バイーヤ	一四、七八四	二七、七一六	三〇、三三三	七五、六五七
エスピリトサント	五、三二五	四、七二〇	八、〇二〇	一三、八〇一
リオデジヤネイロ	一三、一〇六	二、五七〇	九、八六三	六、八七六
聯邦區	六八、一〇六	二四九、六二三	二〇一、六八四	二〇八、三九九
サンパウロ	四〇、一八九	一六五、八三〇	七六、四九八	一八、五九六
パラナ	一七、四九七	一四、二二六	八、四〇八	一五、九九七
サンタカタリナ	五六、七四七	三一、六四三	一三、八三九	三〇、六二三
南大河	一二、九四五	一二七、六六六	六〇、六六三	一二三、三四八
マトグロツソ	七二七	一、一一八	一、〇二〇	一、一二二

總額は五〇七、九九二トン、八四三、六五七コントに達してゐる、昨四〇年同期のそれは數量が五三八、〇六九トン價格は八三九、九九一コントであつた、今年と比較すると量で減り、價格では幾分增加してゐる、各州中では移出入とも聯邦區、サンパウロ、南大河の三州が一頭地を拔いてをり、これはこの三州が工業製造品の生産で國内第一であるによるものである

日本と結んだタイ國の姿（上）

さきに佛印から日本の居中調停によつて首尾よく失地を恢復したタイ國は、今また外電の報ずるところによると、滿洲國を承認し、日本との間に米穀輸出借款を成立せしめ、從來兎角の噂あつた英米依存の態度を淸算し、全面的に日本の指導する東亞共榮圏内の一員として再出發し來つたかに見へるのである、今日のところその經濟の約六〇％をポンドとドルとの支配下に置き在外資金一七六万七千磅はロンドンに在り、二六万五千磅の外債を發行してゐるタイ國としては、マレイ半島やビルマ方面、或は支那雲南省方面からする英國・重慶政權合作の武力的壓迫にもまして、英米の經濟的壞迫を苦痛としたに違ひないに拘らず、敢然として日本と手を握り、歩調を一にして東亞新秩序の建設に邁進すべき態度を明かにしたことは、近頃もつて快とするに足るといはねばならない、

タイ國はさきの對佛印失地回復紛爭で三つの尊い經驗を得た、即ち一つは一般國民が失地に對する認識を深めたこと二は敵味方の實力に對する認識を深め、よき經驗を得たこと、三は小國の爭ひに乘じて第三國が如何に策動するかを知り得たことである

失地回復について大いに日本の努力を多としてゐるであらうことはいふまでもない、また佛印との武力係爭を通じて國力の充實、軍備の完成を痛感したであらうことも察せられる、特に對佛印紛爭の前後を通じ執拗に繰り返へされた第三國の經濟的威嚇は愈々自主的經濟の必要を痛切に味得せしめたことであらうと思はれる、かくしてタイ國は、日本の佛印進駐を眼前に見て、日本の政治的指導と、日本の軍備とに依賴し、その經濟的自主權確立への第一歩を踏み出したものではないかと思はれる、そのためにはやがて襲るであらう英米からの强烈な經濟的壓迫のすべてを、敢然として甘受しやうといふ悲壯な決意を示したものとも思はれるのである

タイ國の經濟がいかに英米への依存性大なるものであつたか、その一例として貿易關係を檢討して見やう、タイ國一九三九年の輸出をその仕向先に百分率で示せば

シンガポール	四九%三
香港	一九%〇
歐洲方面	一三%九
印度	五%二
西印度	五%一
北米諸國	一%九
日本	一%六

となつてゐる、如何に英米依存の程度が大であるか一見してわかるであらう、と同時に日本との貿易關係が如何に貧弱なものであるかゞ了解されるであらう、殊に一九四〇年九月、英本土並に英領マレー向け輸出が七七〇万七千六三七チコル（一チコルは邦貨一圓五〇錢）に達し、對米貿易は日本軍の佛印進駐前の八月に五二万九千九〇〇チコル、合計八〇三万一千五〇〇チコルに及んでゐる、一方これが對日貿易額を見ると、僅か二一七万チコル餘に過ぎず、英米の約四分の一に當るのみである、これを見てもタイ國の財政經濟が英米依存の度極めて密接且つ高度であることが判らう、次にタイ國の主要輸出入物資を示せば左の通りである（一九三九年度）

輸出（單位チコル）

米	九七、四一九、三四一
錫	三〇、八二三、七六二
ゴム	三五、一三三、一〇九
チーク材	六、六九四、二〇五
その他	一三、〇〇一、五六六
再輸出品	三、七〇八、五五一
地金銀	二七、六六一、五五四

輸入（單位チコル）

精製品	九三、一〇一、三三〇
食糧罐詰	一六、七九七、九四二
原料品	一四、七五七、〇六四
麥酒その他	一、六六九、〇二五
阿片	八五五、六七五
生畜	三六、四七〇
地銀金	二三一、一四六
金葉	八一、〇九八

（つゞく）

極東鳥瞰圖
Mapa do Extremo Oriente

棉花週報（七月廿七日～八月二日）

サンパウロ市場

前週末軟調を呈した現物市場はその儘見送られ、月曜は五一ミル五〇〇に落ち續いて廿九日には五一ミル六〇ミルを堅持してゐた四番も買手一服五八ミル迄下げた、卅日、卅日は保合の内に過ぎたが月明け一日稍締り、二日土曜日は高値の買手現れ五二ミル乃至五二ミル五〇〇迄上げ市況俄然見直した

定期市場は廿八日大口の手仕舞出て値も二ミル方落ち、十月限は五三ミル二〇〇に崩落廿九日は更に弱く翌月物は五〇ミル台迄叩かれたが午後反騰し、五二ミル四〇〇稍へ卅日は保合、卅一日は約一ミル方好騰して八月限五三ミル五〇〇、十月限五四ミル五〇〇一、二兩日は先物買出て十月限は五五ミル台に乘せ强調を呈してゐる

海外及輸出

ニューヨークは米政府の農産物對策に對する憶測で連日大巾の下落をし廿九日には十月限は十七仙台を割り、十六仙九九、卅一日には大口の手仕舞出て十六仙〇八と暴落したが、一日に十六仙廿三へ訂正余勢を驅つて二日は十六仙九五に戻した、棉花在庫の凍結案を初め農産物價格統制案等米國々防計畫と睨み合せ色々な對策が考究されてゐるから棉花市場も益々狹隘なものになつて行く、一説には棉花の最高價格を十八仙十四に釘付けにすると云ふ説もあり、尙それでも他の物價に比し安いと云ふのだからアメリカのインフレ景氣も相當に進んでゐると云ふべく、最近のアナリストの活動指數も一六〇と前大戰末期以來のレコードを示してゐる

輸出は依然として不振で七月中の合計は一五五、三三五俵で、前月よりも約二万俵少く英國、スペイン、ポルトガル等の大量買付の報も唯今の處その內或程度のものが買持されてる事は事實であるが船腹の不足で輸送は捗々しくないアメリカの日本資産凍結令は極東への商談に相當影響を及ぼしてゐる、今まで爲替の決濟はニューヨークで爲されてゐたが今後はそれが不可能となるため他の方法によらねばならぬから非常に制限される譯である

國内及奥地

格付は卅日三億キロを突破し卅一日には俵數一、六四三、五二一 三〇二、八〇九、二一七キロに達した、この分で行くと二百万俵は確實で或ひは二百三十万俵に達するかも知れぬ

KANAKAO S. A.

肥料、農具、薬品、ニカワ

カ・ナカオ化學工業株式會社

サンパウロ市テオドロ・サンパイオ街二七五六番 電話 八一二五八七番
郵函 二一八六番
支店 イタプーラ・ミランダ街一七一一九 電話 二一六六三七番

Dr. Estacio de Sá
R. D. Pedro II, 76
3.o and. s. 13 - Santos
齒科
今般サントス日本領事館の隣り上記へ開業致しました
診療は絶對保證付

出聖の節は是非當館へ
歸國手續一切迅速に取扱ひます
熊本旅館
館主 園田吉之助
聖市コンデ・ド・ピニャール街八九 電話 二一七五五八番

Casa Vermelha
Rua Quintino Bocaiuva, 18
Tel. 2-4693 - S. Paulo
紳士 淑女 子供向
最新型靴
豊富に取揃へて居ります
是非日本人の皆様の御來店をお待ち致します

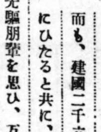
南米随一として知られたるマツサーヂ並に
名灸と鍼術
鍼灸、マツサジスト 磯谷本院
マリリヤ市郵函三六 バエスレーメ街三二一

Y. Kinjô
Cirurg. Dentista
齒科醫 金城山戸
R. Christovão Colombo, 3 2°. andar
Telephone. 2-8058 - São Paulo

CASA NOVELTY
Rua S. Bento, 284
TEL 2-1195
各種贈答用品
寶石 時計 クリスタル 万年筆 ボルサ カルテイラ
各種流行品

急募
小店員 十四、五歳、伯國生
小女中 十五、六歳住込、拂高給
保證人又は本人來談
中久保合名會社
Rua Frederico Alvarenga, 230 Telef. 2-4445 S. Paulo

流轉の跡 輪湖俊午郎著



皇國聖業の秋、今再び私は、懐かしき祖國、日本の地を踏み、而も、建國二千六百年の盛典に會するを得、日本人として感激にひたると共に、顧れば、兩大陸の西に東に、其志を得ずし淋しく逝ける幾多の先驅朋輩を思ひ、万感胸を壓するや切なるを覺ゆるのであります

人間輪湖が久しぶりで日本を訪れ、數多の感銘に胸を壓されつゝ、過ぎし自己を追懐して、感動をそのまゝ筆にした近來の名著、日本では南米への關心日ましに昂まりつゝある時とて飛ぶように賣り盡されたもの、著者を知る我々にとつてもこよなく興深い一冊である

◀日伯社でお取次致します
定價 送料共一二ミル六〇〇レース
日伯社雜誌部 Caixa Postal, 375 - São Paulo

童謠
可愛いゝお子様の爲に コロムビアが贈る
すくすくと延びる春の若草

J4506 日の丸一年生 / 熊の玉乘り
J4505 峠の仔馬 / 銃後のお家
J4501 お星さまピッカリコ / およりやんせ
J4503 かげぼうしさん / お山のとなり組
69764 オモチヤのオウチ / ボクラノスマフ
78004 日ノ丸ノ旗 / ヘイタイサン / ハトポツポ / 人形 / おきあがりこぼし
78015 ひよこ / 電車ごつこ / かたつむり・牛若丸
69658 通せんぼ / たこをどり
30557 早起行進曲 / 健兒行進曲
2-4504 夜が明けた / うれしいヒナマツリ
150091 かへるの合唱 / ナギサノナミ

Columbia
コロムビア・レコード 特選童謠盤
◉海外に在る我等に取つても子弟の國語の純化、情操教養等の資として最近特に童謠盤の賣れゆき盛んなるを見てもすくすくと延びる兒童への生きた教材の一つとしてレコードの果す使命が如何に大なるかを物語つてゐます

REDAÇÃO ADMINISTRAÇÃO E OFICINAS
R. Maestro Cardim, 1109
TELEF.: 7-3325 e 7-3326
CAIXA POSTAL, 375
Endereço Telegrafico: "ASAHI"
SÃO PAULO - BRASIL

BRASIL ASAHI

(DEVIDAMENTE AUTORIZADO PELO D. I. P.)
DIRETOR: José Yamashiro

ASSINATURAS:
PARA O BRASIL: ..... 0$000 — Semestre 30$000
PARA O EXTERIOR: ..... 120$000
ANUNCIOS — Temos à disposição dos interessados uma tabela completa de preços p/ anuncios nesta folha.

Ano II | São Paulo — Sabado, 9 de Agosto de 1941 | Num. 312

Sr. M. Kobayi
R. Galvão Bu
Nesta

Chungking deseja ficar sob o domínio Anglo-Americano!

Londres e Washington procuram fazer de Chungking o seu quartel general na luta contra o Japão — Ameaça anglo-americano-chinesa á Tailândia — Londres propala que é o Japão que está ameaçando aquele país — A demarcação da fronteira entre o Tai e Indochina — Reunião de representantes de firmas japonesas em Saigon — A esquadra americana em Brisbane — O conselho de guerra australiano discutiu a situação do Extremo Oriente — Aumento nos premios de seguros maritimos — Singapura fornece opio!

HONG-KONG, 7 (D.) — Informa o "Nichi-Nichi" que com a efetivação da marcha das forças japonesas no sul da Indochina, o governo de Chungking e a Inglaterra e Estados Unidos fortaleceram repentinamente a sua frente comum. O governo de Chang-Kai-Chek está desejando tornar-se dependente dos Estados Unidos e Inglaterra e estes procuram fazer de Chungking o seu quartel general para a luta contra o Japão.

AMEAÇA ANGLO-AMERICANO-CHINESA AO TAI

BANGKOK, 7 (D.) — Causou sensação o reconhecimento oficial do Mandchukuo pelo Tai, especialmente entre os chineses anti-japoneses residentes no país e os anglo-americanos que tudo fizeram e estão fazendo para colocar o Tai sob sua influência. E' objeto de grande atenção a atitude que tomarão a China, EE. UU. e Inglaterra em face do reconhecimento do Mandchukuo. Dizem os círculos bem informados que aqueles paises já apresentaram um protesto. Temendo que o Tai se torne um dos elementos mais poderosos da nova ordem Asiática, estão ameaçando aquele país com o embargo da exportação de petróleo, saco de linho ou mesmo com o congelamento de seus créditos.

A situação internacional em torno do Tai se tornou extremamente grave nestes últimos dias.

A TAILANDIA EM PERIGO?

LONDRES, 8 (U. P.) — As últimas noticias sobre a situação no Extremo Oriente acentuam que a Tailândia se acha em face de indubitavel perigo, em consequência do avanço nipônico em direção ao sul.

LONDRES, 8 (U. P.) — Sabe-se que os japoneses já desembarcaram 50.000 homens na Indochina meridional e ocuparam oitenta aeródromos da possessão francesa.

LONDRES, 8 (U. P.) — Círculos autorizados julgam que os siameses se defenderão se forem atacados pelos nipônicos, mas se absteem em afirmar se os britânicos lhes prestariam auxílio contra uma possivel agressão nipônica.

A DEMARCAÇÃO DA FRONTEIRA ENTRE O TAI E A INDOCHINA

SAIGON, 7 (D.) — A delegação japonesa chefiada pelo ministro Yano aguarda a chegada das delegações do Tai e Indochina para iniciar, pelo dia 12, as negociações para a demarcação das fronteira entre esses dois paises.

SAIGON, 8 (U. P.) — Chegou hoje a esta cidade a delegação japonesa que é chefiada pelo sr. Nakoto Yano, encarregado de dirigir os trabalhos da nova demarcação de limites entre a Indochina e a Tailândia.

REUNIÃO DE REPRESENTANTES DAS FIRMAS JAPONESAS

SAIGON, 7 (D.) — Especial para o "Asahi" de Tokyo. — O consul-geral do Japão sr. Minoda convidou ontem a comparecer no consulado cerca de 10 representantes das firmas japonesas para conferenciar sobre a intensificação das relações comerciais entre o Japão e a Indochina e problemas econômicos do sul da Indochina, após a ocupação japonesa.

ESQUADRA AMERICANA EM BRISBANE

BRISBANE, 6 (D.) — O contra-almirante Taffinder, comandante da esquadra norte-americana, atualmente ancorada neste porto, declarou hoje aos jornalistas:

"Enquanto durar a guerra, a esquadra americana continuará a visitar Brisbane. Os cruzadores veem aqui apenas para obter combustivel e creio que não entrarão em outros portos".

De um lado, porem, o sr. Hughes, ministro da Marinha da Austrália, declarou o seguinte, fazendo ver que navios americanos estavam navegando em outras partes da Austrália:

"A visita de cruzadores norte-americanos a Brisbane está chamando a atenção dos paises do norte. Atualmente se encontram em Bribane os cruzadores "Northoumpton" e "Salt Lake City", mas acredito que outros vasos estejam navegando nas proximidades da Austrália".

O CONSELHO DE GUERRA AUSTRALIANO DISCUTIU A SITUAÇÃO DO EXTREMO ORIENTE

SHANGHAI, 7 (T. O.) — Informa-se de Melbourne que o Conselho de Guerra ontem reunido discutiu a situação do Oriente. Durante os trabalhos, o primeiro ministro Robert Gordon recebeu a visita do ministro plenipotenciário japonês Tatsuo Kawai, ignorando-se entretanto o assunto versado. De acordo com os comentários feitos nos círculos autorizados, a conferência entre os dois estadistas teria versado sobre a situação no Extremo Oriente, tendo o ministro da Marinha anunciado que de acordo com a reorganização sofrida, as forças aéreas australianas já se acham preparadas para qualquer eventualidade.

A PAZ DO PACIFICO DEPENDE DO JAPÃO

MELBOURNE, 8 (U. P.) — O sr. William Hughes, ministro da Marinha, declarou, ontem, que a paz do Pacifico depende do Japão.

O ministro acrescentou que os japoneses compreenderão isso "a menos que tenham perdido o juizo".

AUMENTO NOS PREMIOS DE SEGUROS MARITIMOS NAS ROTAS DO EXTREMO ORIENTE

STOKOLMO, 7 (T. O.) — Foram anunciados importantes aumentos nos prêmios de seguros maritimos nas rotas do Extremo Oriente, e em algumas do Mediterrâneo Oriental, relativamente a embarques entre Hong-Kong, Filipinas, Singapura, Indias Holandesas, Indias Britânicas.

SINGAPURA OFERECE OPIO!

SHANGHAI, 7 (T. O.) — O governo de Bangkok importou de Singapura, certa quantidade de ópio, no valor de 400.000 dólares, destinado ao consumo dos fumantes de Hong-Kong, os quais, desde o inicio das hostilidades sino-japonesas vinham adquirindo aquele tóxico, por vias de contrabando.

Os circulos novayorkinos comentam a vitoria alemã no setor leste

Os alemães aprisionaram 30.000 russos na frente da Ukrania — Os alemães desfecharam nova ofensiva na frente oriental — A defesa da costa norueguesa

NOVA YORK, 6 (D.) — O comando alemão publicou hoje o extraordinário resultado das operações das forças teutas na guerra contra a U. R. S. S.

Os observadores desta cidade indicam o fato do comunicado alemão ter omitido quasi por completo os pontos de avanço das forças germânicas, como comprovante da estagnação da frente de luta, nos últimos tempos. Os alemães tambem teem dito repetidamente que a resistência soviética era tenaz. Os russos e neutros acreditam, assim, que a luta entrou na fase de longa duração, como é do plano soviético. A frente oriental entrará no inverno dentro de um mês e o trigo da Ukrânia está sendo colhido. Mesmo que os alemães conquistem a Ukrânia dentro de poucos dias, nada obterão, pois os russos adotam a tática da destruição. Em resposta os alemães declaram que seu objetivo não é a conquista de terreno mas sim a destruição total do exército vermelho. Neste sentido, o resultado da segunda ofensiva foi muito maior do que o da primeira. A segunda ofensiva visou de fato segundo se acredita nesta cidade, o esmagamento do exército russo.

30.000 PRISIONEIROS RUSSOS EM 24 HORAS

BERLIM, 8 (U. P.) — Urgente. — Informa o Estado Maior que, na frente da Ukrânia, foram aprisionados, nas últimas 24 horas, cerca de 30.000 combatentes russos, entre os quais o comandante do 6.o Exército soviético.

NOVA OFENSIVA ALEMÃ NA ZONA LESTE

BERLIM, 8 (U. P.) — Urgente. — De acordo com circulos autorizados, os alemães desfecharam uma nova ofensiva na frente leste, com apoio, ao que se julga, na zona de Smolensk.

Acrescentam os mesmos círculos que as operações agora iniciadas são de grande envergadura.

OS ALEMAES ESTÃO FORTIFICANDO A COSTA NORUEGUESA

LONDRES, 8 (U. P.) — Círculos noruegueses bem informados desta capital revelaram hoje que os alemães estão construindo novos aeródromos no território norueguês, ampliando tambem vários pontos destinados para base de submarinos.

Simultaneamente, os alemães fortificam a costa da Noruega, na previsão, talvez, de uma possivel invasão.

Reunião de vice-ministros

TOKYO, 7 (D.) — Realizou-se hoje, a reunião ordinária dos vice-ministros de Estado na residência oficial do primeiro ministro. O sr. Oikawa, presidente em exercício do departamento da Restauração da Asia e o sr. Yamamoto, vice-ministro do Exterior explicaram o papel dos orgãos japoneses existentes na China e Indochina. A seguir o vice ministro da Agricultura, sr. Miura fez um relato sobre o estado atual das culturas agricolas do país.

O embaixador Mandchú conferenciou com o sr. Toyoda

TOKYO, 7 (D.) — O sr. Li, embaixador do Mandchukuo, visitou hoje o sr. Toyoda, ministro do Exterior, conferenciando com s. excia.

Controle de exportação no Japão

TOKYO, 7 (T. O.) — Em virtude do decreto hoje publicado pelo Ministério do Comércio Japonês, grande número de artigos de produção japonesa foram postos sob o controle da exportação, afim de impedir que produtos de importância para a defesa nacional sejam enviados ao estrangeiro. Elevam-se a 283 os artigos sujeitos a controle.

O principe Konoye no Palacio

TOKYO, 7 (D.) — O principe Konoye, esteve ontem no Palácio. Após conferenciar com o sr. Kido, chanceler do Selo Privado, foi recebido em audiência por S. M. o Imperador.

Após apresentar relatos sobre os assuntos administrativos, a S. M., o principe Konoye retirou-se do Palácio.

Fundação de uma grande empresa de industria química

TOKYO, 7 (D.) — O Ministério do Comércio e Indústria está organizando um projeto de lei de fundação de uma empresa semi-oficial de indústria química. Esse projeto será apresentado no próximo periodo da Dieta Imperial. O capital da nova empresa será de 100 milhões de yen. O governo entrará com 70 por cento do capital e os círculos particulares com 30 por cento. A empresa abarcará todos os importantes setores da indústria químico-cientifica.

Portugal defenderá os Açores a todo custo

LISBOA, 6 (D.) — O presidente Carmona, de Portugal, visitou Horta, no arquipélago dos Açores e discursando para os seus habitantes disse:

"Aumenta de importância a missão estratégica do porto de Horta neste momento em que um vasto plano militar está para ser executado".

O presidente Carmona sustentou que os habitantes daquelas ilhas tinham o dever de morrer pela pátria. Interpreta-se aqui as palavras do presidente como significando a decisão de Portugal em defender a todo custo as ilhas dos Açores.

Greve num estaleiro estadunidense

10.000 operarios declararam-se em parede

CONAY, (Nova Jersey), 7 (D.) — O C. I. O. proclamou a greve dos operários do estaleiro federal desta cidade, onde estão sendo construidos o cruzador "Atlanta" de 6.000 toneladas (a ser lançado ao mar no dia 9) e mais 6 cruzadores, 3 navios petroleiros e 2 cargueiros. Peter Frank, dirigente local do C. I. O., declarou que 400 operários abandonaram o referido estaleiro no dia 6 à noite e que .... 10.000 não comparecerão hoje ao serviço. O estaleiro em questão é o maior da costa oriental dos EE. UU. e possue cerca de 17.000 operários.

Tem contratos para a construção de navios num total de 493 milhões de dólares.

Aprovada a lei de ampliação do serviço militar nos EE. UU.

Violentos ataques de um senador Republicano

WASHINGTON, 8 (U. P.) — Por 44 votos contra 28 o Senado aprovou, ontem a emenda que ampliou para 18 meses o periodo de serviço militar obrigatório.

WASHINGTON, 8 (U. P.) — Durante os debates de ontem no Senado, sobre a emenda relativa ao serviço militar, o velho senador republicano, sr. Hiram Johnson, atacou veementemente Stalin e arrancou vivos aplausos nas galerias quando bradou, batendo com o punho cerrado sobre a tribuna: "Não concordarei com a doutrina de que se deva ser stalinista para ser norte-americano".

Acrescentou o senador Johnson que Stalin é culpado da maior mortandade da história do mundo.

O embaixador soviético conferenciou com o ministro do Comercio do Japão

TOKYO, 7 (D.) — O sr. Smetanin, embaixador soviético, visitou hoje o sr. Sakonji, ministro do Comércio, com quem conferenciou longamente.

O sr. Tomita conferenciou com o ministro do Exterior

TOKYO, 7 (D.) — Obedecendo a uma ordem do príncipe Konoye, o sr. Tomita, secretário geral do gabinete, visitou ontem à tarde o ministro Toyoda, com quem conferenciou sobre assuntos importantes.

O noticiario telegrafico publicado pelo "BRASIL ASAHI" é fornecido pelas Agências: "Nacional" (A. N.) brasileira; "Domei" (D.) Japonesa; "United Press" (U. P.) norte-americana; "Transocean" (T. O.) alemã).

A India não necessita da proteção britanica

SHANGHAI, 7 (T. O.) — o jornal indú "Azad", publicado nesta cidade, declara que a India não necessita da proteção britânica, posto que tem capacidade para defender-se por si mesma.

O aludido periódico acentua que a indústria bélica britânica instalada nas Indias, constitue um centro de abastecimento que basta perfeitamente às necessidades do país, que, dispondo de excelentes soldados, está apto a defender sua integridade. Demonstra que a proteção inglesa, consequentemente, é perfeitamente dispensavel, ainda mais que, na realidade, tal proteção serve somente para que a metrópole procure consolidar indefinidamente sua posição de senhora na India colonial.

É possivel a invasão dos EE. UU. pelo ar

NOVA YORK, 8 (U. P.) — "Se os aviões podem ser conduzidos em vôo, daqui para a Europa, tambem poderão vir da Europa até aqui" — disse o tenente-coronel George Hutchinson, do "Rotary Club", o qual já pilotou numerosos aviões norte-americanos para a Inglaterra.

Dessa forma, o orador quis acentuar a possibilidade de uma invasão aérea dos Estados Unidos.

Realizar-se-ia uma conferencia em Gibraltar

MADRID, 8 (U. P.) — Segundo rumores ainda não confirmados, realizar-se-á, dentro em breve, uma conferência em Gibraltar, entre o comandante da fortaleza britânica, visconde de Gort, o embaixador britânico nesta capital, sr. Samuel Hoare, e o general Nogues, alto residente francês no Marrocos francês.

Os funerais do capitão Bruno Mussolini

ROMA, 5 (U. P.) — Os funerais do capitão Bruno Mussolini serão realizados hoje em Precappio, após as cerimônias fúnebres que serão realizadas em Pisa.

O pavilhão nacional italiano foi hasteado a meio pau em todo o território da Itália.

Os Estados Unidos estão estudando a possibilidade de iniciar a importação de amido de mandioca do Brasil

Fala á "Folha da Manhã" o sr. F. H. Thurber, técnico do Departamento de Agricultura de Washington, que veiu a São Paulo tratar do assunto

Chegaram, ontem, pela manhã a esta capital, viajando pelo avião PP-PAY da Panair, os srs. Francisco H. Thurber e Erwin Keeler, respectivamente técnico em amido do Departamento de Agricultura de Washington e adido comercial da embaixada norte-americana no Rio de Janeiro.

SS. ss. que vieram estudar em São Paulo as possibilidades locais da produção de amido de mandioca, e sua exportação para os Estados Unidos, foram recebidos no aeroporto de Congonhas pelos srs. cap. Franco Pinto, representante do interventor federal, Thyrso Martins Filho, representante do secretário da Agricultura, Cecil P. Cross, consul geral norte-americano em São Paulo, e Jorge Bierrembach, do Instituto Agronômico de Campinas.

INCREMENTO DO INTERCAMBIO COMERCIAL ENTRE AS AMERICAS

No intuito de obter maiores informes sobre as atividades que estão sendo desenvolvidas, em nosso país, pelo técnico norte-americano, a reportagem da "Folha da Manhã" procurou ouvir o sr. Francis H. Thurber, no Hotel Esplanada, onde s. s. se hospedou logo após sua chegada.

O técnico do departamento de Agricultura de Washington informou que está realizando um cruzeiro pela América do Sul, através do Brasil, Argentina, Chile, Perú, Panamá, de onde deverá retornar a Washington, seu ponto de partida. Nessas viagens realiza estudos sobre as possibilidades de importação, por parte dos Estados Unidos, de certos produtos peculiares a essas regiões.

A IMPORTAÇÃO DE AMIDO BRASILEIRO

— "Durante a minha permanência no Brasil estou estudando as possibilidades da importação pelo meu país de amido de mandioca aqui produzido — declarou à reportagem da "Folha da Manhã" o sr. Francis H. Thurber, que acrescentou em seguida: — "Somos grandes importadores de amido . Até agora os Estados Unidos se supriam desse produto nas Indias Holandesas. Obedecendo ao plano de incrementar o intercâmbio comercial inter-americano, os Estados Unidos examinaram a possibilidade de importar o amido de mandioca produzido no Brasil.

Durante minha curta estada no Rio de Janeiro tive ocasião de visitar as fábricas do produto em apreço e estudar os processos locais de produção, levando a cabo tambem conversações com os técnicos do Ministério da Agricultura.

Em São Paulo, onde pretendo permanecer cerca de uma semana, prosseguirei em meus estudos sobre as culturas locais da mandioca e as usinas produtoras do amido. Como já lhe afirmei, os Estados Unidos são grandes importadores de amido, e o Brasil só destina esse seu produto ao consumo interno.

Há pois motivos de sobra para que o intercâmbio comercial em perspectiva seja iniciado".

NÃO CONSTITUE UM PROBLEMA O TRANSPORTE DO PRODUTO

Interrogado pela reportagem sobre as dificuldades que poderiam sobrevir para o transporte do produto do Brasil para os Estados Unidos, devido à diminuição do número de barcos que servem essa linha de navegação, o sr. Francis H. Thurber respondeu:

— "O problema não nos preocupa, e podemos dizer que não existe. Para terminarmos as negociações entaboladas, resta apenas examinar a qualidade do produto brasileiro e verificar se ele coincide com o que é empregado pela indústria norte-americana".

Finalizando a palestra que manteve com a reportagem o sr. Francis H. Thurber informou que ontem mesmo deveria entrevistar-se com o sr. interventor federal afim de tratar dos assuntos que o trazem ao Brasil. S. s. partirá, na próxima semana, em avião da Panair, com destino a Buenos Aires.

VISITAS OFICIAIS

Ontem, à tarde, os técnicos americanos ,acompanhados do sr. Cecil M. P. Cross, consul dos Estados Unidos em São Paulo realizaram visitas oficiais, sendo recebidos, em Palácio, pelo interventor Fernando Costa, e, na Secretaria da Agricultura, pelo dr. Paulo de Lima Corrêa, titular dessa pasta.

Tanto ao interventor federal, como ao secretário da Agriculcura, os visitantes expuseram os motivos de sua viagem ao nosso Estado, palestrando longamente com ss. exas., e manifestando-lhes o desejo de conhecerem as organizações oficiais produtoras do amido.

O dr. Paulo de Lima Corrêa, por determinação do chefe do governo, designou um dos técnicos da Secretária da Agricultura para acompanhar os ilustres hóspedes nas visitas que pretendem realizar às instituições oficiais do Estado.

O titular da Agricultura tomou, igualmente outras providências, afim de que os srs. Francis H. Thurber e Erwin Keeler encontrem facilidades no desempenho da sua missão em São Paulo.

VIAGEM AO INTERIOR DO ESTADO

Os técnicos americanos que nos visitaram empreenderão uma viagem ao interior do Estado, seguindo hoje, pela manhã, acompanhado do técnico da Secretaria da Agricultura, para Campinas.

Sucessivamente serão percorridas as cidades de Limeira, Araras e Sorocaba sempre com o objetivo de conhecerem as organizações produtoras de mandioca, dando-se, em seguida, o regresso a esta capital.

(*Da "Folha da Manhã"* 8-8-41).

De 106 mil contos em 1933, a arrecadação federal em São Paulo passou a 474 mil contos em 1940

Declarações do sr. Tupy Caldas

Apesar da situação anormal que atravessamos, não decresceu em nosso país o movimento da arrecadação das rendas federais.

Afim de obter dados precisos sobre as atividades da Recebedoria Federal de São Paulo, a reportagem procurou ouvir o diretor dessa repartição. O sr. Tupi Caldas prontificou-se a dar os informes solicitados.

SENSIVEL AUMENTO NAS ARRECADAÇÕES

— "A Recebedoria de Rendas de São Paulo — declarou inicialmente s. s. — vem acusando um aumento crescente nas suas arrecadações. Apesar da situação angustiosa pela qual passa o mundo inteiro, em consequência da guerra, podemos apresentar este ano uma diferença para mais, sobre igual período do ano passado, de réis 47.196:152$400. A eloquência dos algarismos mostra, de forma lisongeira, que a Recebedoria Federal em São Paulo marcha perfeitamente sintonizada com o progresso sempre crescente da terra bandeirante".

O sr. Tupi Caldas passa a examinar, então, o movimento da Recebedoria Federal em São Paulo, desde o instante da sua fundação.

— "Realizamos no momento um trabalho extraordinariamente aumentado, declarou. Trabalhamos agora com o mesmo número de funcionários de que foi dotada esta casa na sua fundação. Em 1933, atendemos a 122.351 contribuintes. No ano passado, esse número atingiu a cifra de 250.980. Quanto à arrecadação, o aumento é extraordinário. Tendo arrecadado em 1933 a importância de réis 106.892:573$600, pode a Recebedoria Federal ultrapassar esses números, obtendo em 1940 a importância de 474.906:105$6".

Iniciará suas transmissões dentro de algumas semanas a primeira Estação de ondas curtas de S. Paulo

Sobre a nova emissora fala á "Folha da Manhã" o sr. Decio Pacheco Silveira, diretor-gerente da Rádio Difusora — A cidade do ràdio — Notas

No dia 2 de Setembro de 1934, há quasi sete anos atrás, pouco antes da inauguração da Rádio Difusora, a reportagem das "Folhas" foi entrevistar o dr. Décio Pacheco Silveira que naquela época, já ocupava um dos postos da diretoria da nova emissora, nele empregando todo o seu entusiasmo ardente de paulista para a realização de obras que viriam elevar o nome de São Paulo. Falando à reportagem das "Folhas" afirmou ele todos os propósitos e ideais da nova emissora: transmissões que primassem pela sua perfeição técnica, tanto na pureza do som como no seu volume e alcance e programas eminentemente nacionalistas que constituissem esplêndidas contribuições para a obra educativa do governo nacional.

Passados sete anos, é interessante notar que a Rádio Difusora guiando-se por uma diretriz certa de trabalho, cumpriu todas as suas promessas e se impôs ao país inteiro como uma de suas grandes vozes. Na mesma entrevista, o dr. Décio Pacheco Silveira declarava que era pensamento da diretoria erguer ao lado da emissora de ondas longas, outra, de ondas curtas; e a criação de uma estação que falasse para o mundo inteiro, estava tão integrada no espirito de ação da Rádio Difusora que, ao construir-se o modelar prédio do Sumaré, se fizeram instalações que pudessem abrigar os estúdios e transmissores de duas estações.

O velho sonho da Rádio Difusora está em vias de ser uma realidade. O país inteiro espera com ansiedade as próximas experiências que deverão ser iniciadas ainda este mês. No intuito de melhor informar aos nossos leitores sobre uma realização que bem diz do alto espírito de construtividade do paulista, fomos procurar em seu escritório o dr. Décio Pacheco Silveira, diretor-gerente da Rádio Difusora São Paulo, que se prestou gentilmente a responder às nossas perguntas:

— "Há meses atrás uma portaria do Governo Federal colocava em primeiro lugar entre as concorrentes, a proposta da Rádio Difusora para montar em São Paulo uma emissora de ondas curtas, disse o conhecido homem de rádio.

— E quando começará a funcionar a nova emissora?

— "De acordo com os nossos planos, no mês de Julho de 1941 já deveriamos ter iniciado as transmissões em carater experimental; o atrazo no entanto da chegada de uma válvula para o estágio geral impossibilitou-nos a cumprir o prometido. Daqui há algumas semanas porem o Brasil e o mundo já estarão ouvindo a voz de S. Paudo, do seu comércio e indústria. Transmissor potentissimo, de 25KW, colocado entre os 15 maiores do mundo, foi ele montado pela Sociedade Técnica Paulista em cuja direção está o dr. Geraldo Homem de Melo, um dos grandes engenheiros eletricistas do Brasil. Aproveitamos a oportunidade para convidar as "Folhas" para uma visita ao novo transmissor; o dr. Homem de Mello então dar-lhes-á todos os detalhes técnicos".

Agradecendo ao dr. Decio Pacheco Silveira o amavel convite, não resistimos ao prazer de fazer mais algumas perguntas.

— Onde ficará instalada a emissora?

— "No Sumaré. Aliás acredito que o Sumaré é o bairro ideal para a instalação de emissoras. Ele será talvez num futuro breve a cidade do rádio. Londres já tem Daventry, uma cidade onde se unificaram todos os serviços de rádio da B. B. C. O Sumaré quem sabe está fadado a ser a Daventry de S. Paulo. Quando construimos o prédio atual, em 1934, já pensavamos na possibilidade de ser aí instalada tambem a estação de ondas curtas; eis porque o prédio atual ocupa apenas uma pequena parte do grande terreno que aí possuimos. Nele já está sendo construido um majestoso edifício que será, modéstia a parte, um dos orgulhos de São Paulo. Com dois grandes estúdios e um auditório para 800 pessoas, este edifício, obedecendo a todas as caracteristicas técnicas de uma construção moderna e confortavel, terá notavel serviço de som, de iluminação e renovação de ar, entregues a profissionais de renome. Esperamos até o fim do ano dotar São Paulo com com uma instalação de rádio digna do seu progresso. As transmissões de onda curta serão iniciadas, no entanto, imediatamente, aproveitando-se o conforto no prédio atual".

— E quanto as realizações propriamente radiofônicas?

— "Ainda é um pouco cedo para entrarmos em detalhes. No entanto, as direções dos nossos diversos departamentos já estão em atividade traçando os planos futuros de ação. Obrigados a apresentar programas de classe, tudo faremos para que a arte do Brasil conquiste admiradores e entusiastas em todos os cantos do mundo. Insistiremos como sempre no carater nacionalista de nossos programas. Uma emissora de rádio vem para cumprir uma alta missão de patriotismo e cultura; ao lado de seus programas, meramente de diversão ela não pode esquecer os seus objetivos mais altos, isto é, a educação e a cultura do povo, como índice do seu progresso em face das outras nações".

(*"Folha da Manhã"*, 8-8-841).

Utilização industrial do "carrapicho"

RIO, 7 — O "carrapicho" é uma planta muito vulgar não só na região amazônica, como em todo o território baiano, onde cresce em abundância, principalmente na zona do rio São Francisco e nas regiões alagadiças. E' um textil liberiano classificado cientificamente por Saint Hilaire, sob o titulo de "Pavonia sepium". Alem de produzir ótimas fibras, para o fabrico de telas, tecidos e sacarias, é aproveitado, tambem, para o preparo da "celulose" dada a constituição da respectiva haste, atualmente muito empregada como flexa de foguetes.

Nascendo espontaneamente, não há ainda, no nosso país, o cultivo racional dessa planta e só agora, depois dos primeiros estudos realizados em torno da sua utilidade, é que os técnicos agrícolas, de acordo com as instruções do Departamento Nacional da Produção Vegetal e do Ministério da Agricultura, estão preciosa fibra, integrando-a, decisivamente, entre os valores reais da nossa produção agrícola.

As provas práticas sobre a importância industrial do "carrapicho" determinaram uma grande procura dessa planta. Muitos pedidos, feitos ao Estado da Baía, pelo de São Paulo, Rio de Janeiro, Pernambuco e Rio Grande do Sul deixaram de ser atendidos e, no momento, essa situação perdura reclamando urgência na exploração perfeitamente organizada dessa planta.

O presidente Getulio Vargas foi eleito para a Academia Brasileirá de Letras

RIO, 7 — A Academia Brasileira de Letras, reuniu-se, hoje, às 17 horas numa das mais movimentadas e importantes sessões do ano, para eleição à cadeira vaga com a morte do jurisconsulto paulista Alcântara Machado.

Tendo surgido no seio da própria entidade um movimento no sentido de ser escolhido o nome do sr. Getúlio Vargas para preencher a vaga, os srs. Menotti Del Picchia, Martins de Oliveira e Basilio de Magalhães, que vinham disputando a referida cadeira, num gesto de reconhecimento às altas qualidades do novo candidato, retiraram do pleito seus nomes.

O sr. Getúlio Vargas aceitou o lançamento de sua candidatura, e, em consequência, entrou como único candidato para a vaga aberta pela morte do saudoso mestre de direito da Faculdade de São Paulo, que ocupava a cadeira 37 cujo patrono é o grande Tomaz Antonio Gonzaga.

Após a leitura do expediente, verificou-se estarem presentes os acadêmicos Levi Carneiro, presidente, Macedo Soares, Pereira da Silva, Pedro Calmon, Roquete Pinto, Fernando de Magalhães, Afonso de Taunay, Adelmar Tavares, Alceu Amoroso Lima, Alcides Maia, Aloísio de Castro, Ántonio Austregésilo, Ataulfo de Paiva, Barbosa Lima Sobrinho, Cassiano Ricardo, Claudio de Sousa, Clementino Fraga, Felinto de Almeida, Gustavo Barroso, João Neves, Manuel Bandeira, Múcio Leão, Olegário Mariano, Oliveira Viana, Osvaldo Orico, Ribeiro do Couto, Rodolfo Garcia, Viriato Corrêia e o membro correspondente sem direito a voto João Luso.

Enviaram votos: Otávio Mangabeira, Aquino Corrêia, Guilherme de Almeida, Celso Corrêia Marques e Rodrigo Otávio.

Deixaram de fazê-lo, os srs. qua, Miguel Osório de Almeida, Afrânio Peixoto, Clovis Bevilaqua, Miguel Osorio de Almeida, Hélio Lobo e Magalhães Azeredo. Estão ausentes do país os dois últimos.

Retiradas e conferidas da urna as cédulas, o presidente Levi Carneiro anunciou a eleição do sr. Getúlio Vargas, pelo total de 33 votos, existindo uma cédula em branco, proveniente do estrangeiro. Ecoou imediatamente uma forte salva de palmas no recinto.

Reserva absoluta em torno do falado encontro Churchill - Roosevelt

"Tempo esplendido e pesca abundante" informa o "Potomac"

BERLIM, 7 (T. O.) — Os círculos oficiais norte-americanos continuam mantendo absoluta reserva a propósito do provavel encontro entre os srs. Roosevelt e Churchill. De acordo com os últimos informes obtidos a bordo do "Potomac", no qual o presidente Roosevelt viaja nas proximidades da Nova Inglaterra, adiantam que, se esses dois estadistas já não se encontram juntos, encontrar-se-ão brevemente.

"TEMPO EXPLENDIDO E PESCA ABUNDANTE..."

BERLIM, 8 (T. O.) — Segundo informam de Nova York, um despacho procedente de bordo do iate "Potomac", no qual se encontra o presidente Roosevelt estudando a situação internacional, diz:

"Os peixes mordem muito as iscas. O tempo é explêndido e a pesca abundante".

Nenhuma referência é feita à suposta entrevista com o senhor Churchill, não sendo, igualmente, mencionada a rota do iate.

Intactas as relações nipo-soviéticas

MOSCOU, 8 (U. P.) — Noticia-se que permanecem intactas as relações russo-japonesas, desmentindo-se que tenha ocorrido qualquer choque entre forças de ambos os paises, na fronteira do Mandchukuo com a Sibéria.

TOKYO, 8 (U. P.) — Urgente. — Anuncia-se oficialmente que o governo nipônico chegou à conclusão de que os Estados Unidos, Grã-Bretanha e Holanda procuram bloquear o Japão, não tendo determinado se a rússia participará da política de assedio.

A construção do Palácio da Justiça

O sr. dr. Acácio Nogueira, chefe de Polícia, depois de várias visitas de inspeção que fez a repartições que estão afetas à Chefatura de Polícia, chegou à conclusão de que é imprescindivel a melhoria material das mesmas. Estão nesse rol a Cadeia Pública de Santos, delegacias de circunscrições da capital e algumas do interior, principalmente o edifício, onde funciona o Gabinete de Investigações. Para a construção do Palácio da Palícia foi adquirido ultimamente um espaçoso terreno ocupando um quarteirão compreendido entre as ruas Conceição, Timbiras Andradas e avenida Ipiranga. O futuro palácio deverá comportar a Chefatura de Polícia, Repartição Central, Superintendência de Segurança Política e Social, Gabinete de Investigações, Diretoria do Material da Repartição Central de Polícia, Delegacias Auxiliares, Gabinete Médico Legal e outros departamentos que formam o grande conjunto da Policia de São Paulo. Feito o computo das importâncias que o Estado paga pelo arrendamento dos prédios em que funcionam vários departamentos policiais, chegamos à cifra de 840:000$000 anuais. Este dinheiro gasto e que pode ser economizado pela construção do referido palácio, não atende nem às conveniências, nem ao decoro do serviço atual dos funcionários e do público. Para solucionar esse sério problema de grande e visivel interesse público e econômico para o Estado, o sr. dr. Acácio Nogueira designou, por portaria de ontem, o dr. Afonso Celso de Paula Lima, 2.o delegado auxiliar, para proceder os devidos estudos afim de resolver esse palpitante problema. Como o assunto comporta solução de grande envergadura, capaz de remediar todos aqueles inconvenientes sem maior sobrecarga financeira para o Estado, s. excia. solicitou, tambem, do sr. Secretário da Viação um dos engenheiros daquela repartição para proceder os devidos estudos referentes àquela imprescindivel e grandiosa construção. O gesto do atual chefe de Polícia é mais um atestado da sua capacidade administrativa e do desejo sincero que tem de corrigir todos os defeitos da nossa Polícia, dando-lhe mais desenvoltura, mais eficiência, mais precisão, sem aumento, muito ao contrário, com diminuição do dinheiro público.

Será dividido em 30 distritos agrícolas o Estado de S. Paulo

A medida visa a assistência técnica aos agricultores

Durante o despacho do dia 6, com o interventor federal, o sr. Paulo de Lima Corrêa, secretário da Agricultura, tratou de importantes medidas visando o fomento da produção agricola e a assistencia aos lavradores.

Para atingir-se com rapidez essa finalidade, ficou resolvido pelo interventor Fernando Costa, a divisão do Estado em 30 distritos agronomicos, que terão a seu cargo a orientação dos 270 agronomos a serem localizados nos diversos municipios do Estado. Alem desse grande numero de agronomos regionais, que darão grande impulso ao fomento da produção agricola, contarão os trabalhos com o concurso dos numerosos e competentes agronomos do Departamento de Fomento da Produção Vegetal, do Ministerio da Agricultura sediados em São Paulo. O serviço de fomento agricola federal funcionará em estreita colaboração com os tecnicos estaduais.

A aplicação desse plano, o qual permitirá uma assistencia tecnica aos lavradores, contribuirá para o fomento da produção agricola no Estado.

MORRERAM DE SEDE

100 gráus o calor no deserto de Sonora

YUMA, (Arizona), 7 — Seis pessoas morreram sob a tortura da sede e dos 100 gráus de calor no deserto de Sonora, na estrada conhecida como caminho do Diabo. Uma dessas pessoas degolou-se ao assistir o espetáculo da morte do seu companheiro. Dois sobreviventes foram recolhidos ao hospital. Trata-se de membros de uma mesma familia que viajavam num caminhão, o qual ficou preso nas areias provavelmente há 5 dias passados e que voltavam para Brawley, Califórnia, depois de terem visitado Santana e Sonora.

Os mortos foram descobertos por um pedestre que caminhava pela rodovia de Sonora. Foram identificados os mortos como sendo: Germano Cornejo, de 52 anos de idade; Elias Cornejo, de 25 anos; Domingos Rocha, de 15 anos; Rafael Cornejo, de 17 anos; Elias e Francisco, de 14 anos, todos pertencentes à mesma familia e residindo em Brawley, na Califórnia. Dois foram encontrados com vida. O corpo de Elias Cornejo, completamente nu, foi encontrado a uma distância de 5 milhas. Tinha sido enviado à procura de socorro.

Luta de longa duração

(Fatos diversos)

RIO, 6 (A. N.) — Em reunião da A. B. I., convocada em assembléia geral, após lida a proposta subscrita por centenas de associados, foi, por aclamação, conferida ao Presidente Getúlio Vargas a distinção especial de Presidente de Honra, até então não existente, da tradicional instituição de classe, estando a moção concebida nos termos seguintes:

"E' concedido o titulo de presidente de honra da Associação Brasileira de Imprensa ao senhor Getúlio Vargas, em reconhecimento pelos serviços que lhe prestou, desde o inicio do seu governo como Chefe da Nação. Ninguem mais nem melhor que ele auscultou aos anseios da classe, contribuindo de maneira eficiente e decisiva para se erguer a Casa do Jornalista. Através do tempo, seu nome será sempre reverenciado como grande animador da realização.

A A. B. I. aqui reunida em assembléia geral para reformar sua lei básica, quer inscrever, entre os seus dispositivos, um titulo que não somente exprima gratidão mas tambem a perpetue, por jamais ter sido concedido a outro".

***

RIO, 6 — Faleceu, hoje, na Casa de Saude "São José" o sr. Vitor Konder, ex-ministro da Viação no governo Washington Luis.

O extinto era formado em direito pela Faculdade dessa capital, tendo, em várias legislaturas representado na Câmara Federal o Estado de Santa Catarina, sua terra natal.

O extinto era um grande conhecedor e amigo dos japoneses.

***

RIO, 6 (A. N.) — De Ottawa, no Canadá, deverá partir, no próximo dia 15 do mês em curso, com destino a esta Capital onde chegará no dia 27, o senhor Jean Desy, recentemente nomeado ministro plenipotenciário do Canadá junto ao governo brasileiro.

O chefe da Missão Diplomática daquele dominio, que será a primeira a funcionar no Brasil, foi homenageado pelo ministro João Alberto, que o hospedou em sua casa de campo, no Seignory Clube, com um "cock-tail" ao qual se seguiu um jantar nos salões daquela famosa estância de repouso.

O ágape teve a presença do novo secretário da Embaixada Americana, sr. J. Simpson, que tambem se acha de partida para o Brasil.

***

RIO, 6 (A. N.) — O prefeito municipal de Laguna, em Santa Catarina, comunicou ao Presidente da República que a exportação de carvão mineral, pelo porto de Laguna, durante o mês de Julho próximo findo, atingiu 12.890 toneladas, sendo a Sociedade Carbonifera a maior exportadora, com 9.780 toneladas.

***

A recepção oferecida ao sr. Hara, novo consul geral japonês nesta capital, foi realizada no salão do Hotel Terminus. Tomaram parte nessa homenagem cerca de cem pessoas.

***

Há pouco foram transferidos para a residência oficial do primeiro ministro, príncipe Konoye, cinco refrigeradores de aposento, que foram usados pelo príncipe Saionji, falecido no ano passado.

***

Por ocasião da limpeza do portão do templo Teman de Zadaifu, Japão, foram encontradas cerca de quinhentas múmias de pardal. Segundo parece essas aves que penetraram no interior do portal não conseguiram sair e morreram de fome.

***

A Federação de Mobilização Geral de Ursan, Coréa, está promovendo uma "Exposição de Moças", com o objetivo de formar as esposas ideais à nova ordem e dar instruções especiais sobre os trajes, contabilidade doméstica, modos de falar, etc.

700 milhões de dolares!

A renda dos cinemas em 1940 nos Estados Unidos

NOVA YORK, Julho — Entre os fatos que o sr. George Gallup tem "descoberto" como resultado de um ano de consulta entre frequentadores de cinema dos Estados Unidos, figura que a alegação de Hollywood — informa o "Times" — de que cerca de 80.000.000 de pessoas vão aos cinemas, por semana, é exagerada. O sr. Gallup verificou que esse é o número de pessoas que deixam de ir aos cinemas por semana. De acordo com as suas verificações, os que vão aos cinemas, semanalmente, nos Estados Unidos, somam 54.275.000 e as suas idades variam de 5 a 85 anos.

Em 1940 essa frequência rendeu um total de 700.000.000 de dólares, bem menos do que o total de 1.000.000.000 de dólares que o escritório de Hay tinha anunciado, como cálculo provavel dessa renda.

Falando de Gallup, é oportuno dizer-se que ele mantem o conhecido "American Institute of American Opinion" (Instituto Americano da Opinião Americana) e faz para a imprensa auscultações da opinião pública, as quais teem larga divulgação no país e no estrangeiro.

Frequentemente, a imprensa insere as porcentagens apuradas por Gallup a respeito da opinião americana sobre este ou aquele assunto.

Da Noroeste

O novo prédio do Hotel Suzuki, de Promissão foi inaugurado dia 2 do corrente.

.....

Foi fundada uma fábrica para secagem de casulos de seda em Goiambé. O sr. Marushigue que residia em Aliança será o encarregado da fábrica, que empregará o casulo produzido pelas 100 famílias de sericicultores de Lins, para entregar o casulo seco à fábrica de Bratac de Tietê. A construção da fábrica de Goiambé custou 20 contos.

(Cliché na pág. japonesa).

Palestra da snrta. Nishie

A "Shiragikukai" promoverá no próximo dia 10, em sua sede à rua Pires Lenon, 7, uma sessão para ouvir a srta. Yoneka Nishie, que concluindo um estágio de estudo de dois anos regressou dia 10 do mês próximo passado, do Japão.

A conferência terá inicio às 13,30 horas e está franqueada a todos os interessados.

O "cambio negro"

Continua a preocupar as autoridades japonesas a existência do "câmbio negro" do yen. Ainda recentemente constou que chegara a São Paulo cerca de 200.000 yen clandestinos, que serão vendidos aos japoneses que regressam à pátria. E' necessário entretanto evitar a aquisição de tais "yen" pois a fiscalização nos portos de desembarque do Japão é rigorosissima. Alem disso constitue um crime de lesa pátria o adquirir o yen clandestinamente.

Os "fans" esperam ansiosos a próxima temporada basebolistica

O estado atual dos quadros de basebol

O 6.o Campeonato Inter-Colonial de Basebol será disputado durante três dias, a partir do dia 29 do mês em curso.

Em todas as zonas desenvolvem-se renhidas lutas entre as equipes regionais, visando a glória de figurar no rol das turmas representantes do campeonato que constitue o atrativo máximo do basebol colonial.

A EQUIPE PAULISTANA

A turma de São Paulo, que triunfara por duas vezes, continua no seu intenso treino, esperando-se muito da atividades de elementos novos.

SANTOS

O quadro basebolístico santista que se tornou representante da zona meridional do Estado, vencendo o Registro, temido adversário, está animadissimo com o regresso de Fujikura.

DO INTERIOR

Na eliminatória regional a iniciar-se no próximo dia 16, os conhecidos "teams" da Aliança, Birigui e Pereira Barreto, e as novas turmas de Araçatuba e Guararapes disputarão o titulo de "vencedor da Noroeste".

Na Alta Paulista, continua em posição de destaque a turma de Bastos.

Todavia, o preparo incansavel de Marília e Pompéia, faz prever uma luta árdua na eliminatória local que conta, alem muito breve em Pompéia.

Com o aparecimento de Paraguassú, a posição de Alvares Machado tornou-se bastante precária.

Durante três dias, do dia 10 ao dia 13, será realizada a eliminatório local que conta, alem dos dois "teams" mencionados, o de Presidente Prudente e Presidente Venceslau.

No Norte do Paraná, onde o basebol é praticado com grande entusiasmo, figuram numerosas e fortes equipes.

Na disputa regional do corrente ano, a posição de Santa Mariana, representante de 1940, é ameaçada pelas turmas de Londrina, Três Barras e Cambará.

Impressos ?

Procure a tipografia

NIPPAK-SHA

C. Postal 375 — Tel. 7-3325

GRACIADO PELO GOVERNO PORTUGUÊS O PRESIDENTE GETULIO VARGAS

LISBOA, 6 — O jornal oficial publica hoje um decreto conferindo ao presidente Getúlio Vargas as insignias da Gran Cruz das Três Ordens Portuguesas.

LISBOA, 6 — O decreto que confere ao presidente Getúlio Vargas as insignias da Gran Cruz das Três Ordens Portuguesas está redigido nos seguintes termos: "Considerando que é sempre agradavel à nação portuguesa aproveitar-se de todas as oportunidades para manifestar à gloriosa nação brasileira seu afeto e sua estima especiais; considerando que a suprema magistratura dos Estados Unidos do Brasil é exercida por um dos mais ilustres cidadãos do país, notavel pelas suas virtudes cívicas, e pelos predicados de seu alto prestígio pessoal, concedo a s. excia. o sr. dr. Getúlio Vargas, presidente da República dos Estados Unidos do Brasil, o Colar da Gran Cruz das Três Ordens. (aa) Fragoso Carmona-Oliveira Salazar". O Colar da Gran Cruz das Três Ordens é a mais alta distinção portuguesa. Raramente conferido e reservado aos chefes de Estado, esse colar comporta três das mais brilhantes condecorações portuguesas: a Ordem de Cristo, a Ordem de Aviz e a Ordem de São Tiago da Espada.

Reunião dos produtores e distribuidores de filmes de todo o Brasil

RIO, 5 - Presidida pelo diretor da divisão de Cinema e Teatro do Departamento de Imprensa e Propaganda, realizou-se ontem, às 15 horas, a primeira reunião de produtores e distribuidores de filmes de todo o Brasil.

Nessa reunião foram estabelecidas as preliminares do próximo Convênio Cinematográfico Nacional, afim de fixar as diretrizes para a produção e distribuição de filmes nacionais, à vista do que dispõe o decreto que criou o Departamento de Imprensa e Propaganda.

Estudando as partes básicas a serem definidas, resolveram os componentes da reunião designar uma comissão que se incumbirá de apresentar o esboço do Convênio a ser firmado, depois do que será o mesmo submetido à apreciação e aprovação do sr. Lourival Fontes, diretor geral do Departamento de Imprensa e Propaganda.

Inspeção sanitaria

O Serviço Sanitário está realizando uma inspecção sanitária das habitações da capital. Os infratores das leis sanitárias serão multados em 50$000.

Consideração das Misérias

9-VIII-1941

Miseravel serás onde quer que estejas e para onde quer que te voltes, se te não converteres a Deus. Por que te afliges se te não sucede o que queres e desejas? Quem é que tem todas as coisas à medida dos seus desejos? Por certo, nem eu, nem tu, nem homem algum sobre a Terra. Ninguem vive no mundo sem alguma tribulação ou angústia, ainda que seja rei ou papa. Pois quem é que está melhor? Certamente o que pode padecer alguma coisa por amor de Deus.

Dizem muitos fracos e tibios: — "Olhai que bela vida leva aquele homem! Como é rico, nobre, poderoso, elevado!". Levanta, porem, o pensamento aos bens do Céu e verás que todos os bens temporais nada são! Sempre incertos, são pesados, porque nunca se possuem sem cuidado e temor. Não consiste a felicidade do homem em ter abundância de bens temporais. Basta-lhe a mediania. Por certo é miséria grande viver na Terra. Quanto mais um homem quiser ser espiritual tanto mais amargo se lhe fará a vida presente, pois melhor conhece e mais claramente os defeitos da corrupção humana. Muito oprimido se sente o homem interior com as necessidades corporais deste mundo. Mas, ai dos que não conhecem esta miséria! E, ainda mais, ai dos que amam esta vida miseravel e perecedora!

O' loucos e duros de coração, os que tão profundamente jazem apegados à terra de que nada gostam senão das coisas carnais. Infelizes! Virá o dia em que verão muito, à sua custa, quão vil e nada era tudo que amavam! (IMITAÇÃO, Livro 1, c. XXII). — *M.*

Bibliotecas populares

NOS BAIRROS DA CAPITAL

A Biblioteca Municipal será inaugurada dia 10 de Novembro - Bibliotecas infantis

Segundo se informa, a Prefeitura determinou que as obras da nova Biblioteca Municipal, que está sendo construida na esquina da rua da Consolação com São Luiz, fossem apressadas afim de que no menor prazo de tempo ela possa funcionar. O sr. Prestes Maia cogita de inaugurá-la solenemente no dia 10 de Novembro deste ano, quarto aniversário do novo regime. Há poucos dias, o senhor Rubens Borba de Morais, diretor da Biblioteca Pública Municipal, esteve em conferência com o sr. Prestes Maia. Soubemos que o assunto tratado durante essa conferência dizia respeito aos móveis da nova biblioteca que vão ser encomendados, por estes dias.

Logo que o Departamento de Cultura iniciou suas atividades, uma das primeiras preocupações do seu diretor foi criar num dos bairros desta capital, uma biblioteca infantil. Hoje ela funciona à rua Major Sertório, com uma frequência extraordinariamente grande, sob a direção da sra. Lenira Fracaroli, que é uma competente técnica. Possuindo uma coleção valiosa de obras infantis e uma organização das mais modernas, esse organismo de difusão cultural vem prestando assinalados serviços à infância paulista. Quando essa biblioteca infantil foi instalada cuidou-se antes de tudo de efetuar uma experiência. E essa experiência deu os resultados que se esperavam, isto é, provou que São Paulo pela sua população infantil, comporta não uma, mas várias bibliotecas infantis. Ficou decidido, então, que a Prefeitura procuraria, dentro das possibilidades orçamentárias, ir criando novas bibliotecas infantis, nos bairros mais densamente povoados. O Departamento de Obras estuda, no momento a localização de mais uma biblioteca infantil, que será a segunda de São Paulo. Deverá ser localizada entre a Estação do Norte e a Escola Normal "Padre Anchieta".

Estuda-se tambem, a possibilidade de espalhar pelos bairros bibliotecas populares, bibliotecas com pequenas coleções de quatro a cinco mil volumes na sua maioria compostas de livros instrutivos dedicados ao operariado. A dificuldade toda reside na localização. Desde que a Prefeitura encontre o local apropriado, construirá os prédios próprios, cujos projetos de há muito já foram estudados pela sua secção competente.

Navios brasileiros para a Inglaterra

Já se afirmou, com absoluto fundo de razão, que a indústria brasileira caminha a passos de gigante, nesta fase excepcional em que os paises americanos constituem verdadeiros refúgios vislumbrados e almejados por milhões de pessoas. Milhões de pessoas, efetivamente, nestes instantes, voltam os seus pensamentos para as nações das Américas, sabendo que existe, aqui, um imenso reservatório de energias, desenvolvidas titanicamente sob os benefícios incalculaveis da paz social.

Por isso mesmo, o trabalho há de desenvolver-se quasi vertiginosamente nos paises americanos, afim de atender às suas próprias exigências, mais, à medida do possivel, aos pedidos formulados por numerosas nações envolvidas no tremendo conflito mundial.

O título deste comentário poderá parecer estranho a quem não conheça as grandes possibilidades de diversos estaleiros nacionais. Poderá parecer uma utopia o fornecimento de navios brasileiros à frota de paises beligerantes, sabendo-se que necessitamos, urgentemente, de cargueiros para o transporte de nossas mercadorias.

Muita gente já viu, com certeza, um jornal cinematográfico de acontecimentos mundiais, produzido sob a responsabilidade de grande empresa norte-americana, no qual se encontram sugestivos aspectos da construção, em estaleiros do Brasil, de dois ou três navios mercantes destinados à Inglaterra, em vias de conclusão.

Aí está, pois, um elemento convincente, para os que possam duvidar do grande incremento que perpassa nas indústrias nacionais, por motivo da guerra. O insulamento forçado, resultante da situação internacional, exige dediquemos o melhor de nossos esforços ao preparo dos produtos necessários ao consumo interno. Nem por isso todavia, teremos de abandonar os fornecimentos ao exterior, eis que as nossas indústrias estão aparelhando-se convenientemente para intensificar suas produções.

Ao lado daquelas vistas relativas aos barcos destinados à Inglaterra, o "camera-man" focalizou a visita do presidente Getúlio Vargas aos estaleiros em que se ultima a construção de belonaves de nossa Armada, algumas das quais, aliás, já foram lançadas ao mar, em solenidades recentemente realizadas na capital do país.

Esse é um exemplo de nossas possibilidades.

Crescem de importância, por essas razões, todas as iniciativas do governo federal, para que o país fique dotado de todo o aparelhamento industrial exigido pelo forte desenvolvimento de nossa atividade. A grande metalurgica se inscreve entre os mais sérios empreendimentos em foco. A readaptação de nossas minas e explorações de minerais nobres secunda essa tentativa, cuja vitalidade está assegurada pelas condições peculiares do momento atual.

Surgirá, desse admiravel surto de prosperidade, uma situação impar para o nosso país, fortalecendo-o e enriquecendo-o.

O ressurgimento agricola

O interventor federal em São Paulo, sr. Fernando Costa, acaba de encaminhar ao Departamento Administrativo do Estado o projeto de creação e instalação, em numerosas regiões paulistas, de quarenta escolas profissionais destinadas ao ensino agrícola.

Cada escola terá capacidade de acolher trezentos alunos, o que evidencia a possibilidade de que sejam diplomados em todo o Estado, anualmente, doze mil rapazes habilitados a exercer, nas fazendas e sítios, nas estâncias de criação ou em pequenas propriedades rurais, os mais variados mistéres relacionados com a agricultura, a fruticultura, a pecuária e outros setores do trabalho agrário.

Mantendo o carater eminentemente prático, os cursos prolongar-se-ão por três anos, sendo admitidos os rapazes recem-saídos das escolas primárias. Estes poderão escolher entre os diversos cursos, objeto de classes especiais, afim de que se habilitem em oficios diversos, desde os de capatazes aos de administradores de estâncias e fazendas.

Basta esse enunciado para patentear a alta relevância da iniciativa do govêrno de São Paulo, porque rarissimos problemas nacionais exigem maior atenção da administração pública, alem desses que dizem respeito ao fortalecimento de nossa produção agricola, mediante o preparo profissional do elemento humano que a ela se dedica.

Disse bem um jornalista da Capital, quando afirmou que a creação das novas escolas profissionais no Estado de São Paulo vale por uma revolução radical em nossos meios agricolas, pela extraordinária influência que irão exercer as dezenas de milhares de moços alí instruidos. Na verdade, há de processar-se, em poucos anos completa transformação da mentalidade de nosso trabalhador agrícola, pelo exemplo e pela intervenção desses moços que as escolas profissionais vão colocar, anualmente, em todos os recantos do Estado.

Não serão técnicos consumados, nem simples portadores de diplomas; serão, simplesmente, homens afeitos aos trabalhos da terra, seguramente orientados e capacitados para multiplicar as dádivas do solo e aproveitar melhor as energias de nossa gente campezina.

A Campanha de Nacionalização no Sul do País

Entre as autoridades que prestaram ao Serviço Nacional de Recenseamento uma cooperação cujo valor deve ser encarecido, figuraram numerosos juizes do interior do país, os quais não sómente participaram das Comissões Censitárias Municipais, como, depois de realizada a operação, forneceram valiosas e insuspeitas informações sôbre a normalidade dos trabalhos e a segurança da coleta.

Ainda recentemente, a direção central do S. N. R. recebeu um desses depoimentos, procedente do Estado de Santa Catarina.

Já eram fartos os elementos indicativos da exatidão dos censos naquele Estado sulino, cuja população, orçando em .... 1.182.854 habitantes, segundo os resultados preliminares já divulgados, excedeu a estimativa oficial.

A informação prestada pelo juiz catarinense reforça especialmente a convicção em relação a três municípios, os de Indaial, Timbó e Rodeio, integrantes da comarca de Indaial. Declara o magistrado que não lhe consta ter havido qualquer irregularidade ou omissão, digna de registo, nos serviços censitários. E isso, acrescenta, apesar das dificuldades resultantes do desconhecimento da língua portuguesa, só atenuadas pelo trabalho intensivo de propaganda com reflexo na publicação, em língua alemã, do boletim de família do censo demográfico.

A respeito desse desconhecimento do idioma nacional, a ser demonstrado pelos resultados censitários, o juiz de Indaial fala como patriota, acentuando: "O quadro doloroso que se apresentou à nossa geração justifica a campanha de nacionalização desencadeada, aquí no sul, após o golpe de 10 de Novembro de 1937 e exige o seu prosseguimento sem desfalecimentos nem transigências". Considera ainda que um dos maiores serviços que o recenseamento prestará ao país será o de demonstrar nitidamente o fenômeno para convencer a todos, definitivamente, da magnitude daquela campanha.

CHAMADO O EMBAIXADOR ARGENTINO NA INGLATERRA

BUENOS AIRES, 7 (U. P.) — A Chancelaria chamou a Buenos Aires o embaixador da Argentina, em Londres, sr. Lebreton, afim de prestar informes sobre a situação européia.

O ORÇAMENTO NAVAL DA ARGENTINA

BUENOS AIRES, 7 (U. P.) As primeiras horas de hoje, a Câmara dos Deputados aprovou o projeto de lei sobre o armamento naval, na soma de .... 714.000.000 de pesos.

Anuncios eficientes?
Só no "BRASIL ASAHI", jornal de maior circulação na Colonia Nipanica
Tel. 7-3326

Tabela de preços para as feiras livres a vigorar de 8 a 14 de Agosto de 1941

Arroz Amarelão, Extra (Lemos)	Quilo	2$200		
Arroz Agulha Especial	"	2$000		
Arroz Superior	"	2$000		
Arroz 2.a	"	1$900		
Arroz Regular	"	1$600	a	1$700
Arroz Branco, Especial	"	2$000		
Arroz Branco, Superior	"	1$800		
Arroz Branco Regular	"	1$700		
Arroz Catete, Especial	"	1$900		
Arroz Catete, Superior	"	1$800		
Arroz Catete, Bom	"	1$700		
Feijão Mulatinho, Novo Extra	"	1$000		
Feijão Mulatinho, Novo Superior	"	$900		
Feijão Mulatinho, Novo, Bom ..	"	$800		
Feijão Branco Graudo, Extra, Chileno	"	2$400		
Feijão Branco Miudo, Extra Chileno	"	1$600		
Feijão Preto, Extra, Rio Grande	"	1$000		
Feijão Preto Floresta	"	1$000		
Feijão Preto Superior, do Estado	"	$700		
Feijão Preto Colombina	"	$900		
Feijão Manteiga, Novo, Superior	"	1$100		
Feijão Fradinho, Extra	"	1$000		
Feijão Roxinho, Mineiro	"	1$100		
Feijão Roxinho Paraná	"	1$100		
Feijão Chumbinho, Opaco, Mineiro	"	1$200		
Feijão Chumbinho, Opaco Paraná	"	1$200		
Feijão Bico de Ouro	"	1$200		
Feijão Canário Superior	"	1$100		
Batata Holandesa Lisa Especial	"	1$800		
Batata Hol. Lisa 1.a	"	1$500		
Batata Hol. (Olho Fundo) 1.a	"	1$200	a	1$400
Batata Hol. (Olho Fundo) 2.a	"	1$000	a	1$100
Batata Hol. (Olho Fundo) 3.a	"	$700		
Batata Alfinetada Especial ...	"	1$000		
Batata Alfinetada, 1.a	"	$800	a	$9000
Batata Alfinetada, 2.a	"	$600		
Batata Alfinetada, 3.a	"	$500		
Batata Canadá, Especial	"	1$300		
Batata Canadá, 1.a	"	1$100		
Batata Paraná Iratí, de 1.a	"	$700		
Farinha de Mandioca, Tor. Borití (Norte)	"	$900	a	1$000
Farinha de Mandioca, Extra Crua (Borití)	"	$800	a	$900
Farinha de Mandioca, Boa Crua (Norte)	"	$700	a	$800
Farinha de Mandioca do Rio Grande (Boa)	"	$700	a	$800
Farinha de Mandioca do Rio Grande (Comum)	"	$600	a	$700
Farinha de Mandioca do Estado	"	$500	a	$600
Farinha de Milho Pesada	"	1$000		
Marinha de Milho Leviana	"	1$200		
Farinha de Milho Esp. em Pacote de 3 quilos	"	1$300		
Fubá Mimoso Tipo (Manetti) .	"	$800	a	$900
Fubá Extra Tipo (Manetti) ..	"	$700	a	$800
Fubá Integral Tipo (Manetti)	"	$500	a	$600
Fubá Granulado, Tipo (Manetti)	"	$800	a	$900
Fécula de Milho Tipo (Manetti)	"	1$200	a	1$300
Cangica Especial Tipo (Manetti)	"	$800		
Cangiquinha, Tipo (Manetti) ..	"	$800		
Cebola Argentina Especial	"	4$000	a	5$000
Cebola Rio Grande de 1.a	"	4$200	a	5$000
Cebola Nacional do Estado ...	"	3$500	a	4$000
Alho Chileno de 1.a	Cab	$400	a	$500
Alho Chileno de 2.a	"	$300	a	$400
Alho Chileno de 3.a	"	$200	a	$300
Alho Nacional do Estado	"	$100		
Alho porró comprido	"	$200	a	$300
Abobora Madura	Uma	$600	a	1$200
Aboborinha Italiana	"	$300	a	$400
Aboborinha Brasileira	"	$300	a	$500
Acelga larga, talo branco	Maço	$200	a	$300
Agrião vivaz	"	$500	a	$600
Aipo Salção branco c/2 cab. ...	"	$300	a	$800
Alface francesa	Pé	$100	a	$200
Alface Romana	"	$100	a	$200
Alface s/rival	"	$200	a	$300
Almeirão Folha Larga	Maço	$200	a	$300
Batata doce	Quilo	$300	a	$400
Beringela roxa comprida	Dúzia	1$500	a	3$000
Beringela giló	"	$300	a	$400
Beterraba vermelha c/3 cab. ..	Maço	$400	a	$600
Cebolinha verde	"	$800	a	1$100
Cenoura comprida c/24 cab. ...	"	$600	a	1$500
Catalonha	"	$200	a	$400
Cará da terra	Quilo	$500	a	$700
Chicória amarga	Maço	$200	a	$300
Chicória lisa	"	$200	a	$300
Chicória crespa	"	$200	a	$300
Couve brócolis verd, maç. grande	"	2$500	a	4$000
Couve manteiga	"	$200	a	$300
Couve-flor, pé curto	Pé	$500	a	1$200
Ervilha torta, verde	Quilo	$900	a	1$500
Ervilha Branca de 1.a	"	$800	a	1$400
Ervilha Branca especial	"	1$500	a	2$000
Escarola	Pé	$100	a	$200
Espinafre, Nova Zelândia	Maço	$300	a	$400
Erva doce c/2 cab.	"	$400	a	$600
Inhame	Quilo	$400	a	$500
Mandioca	"	$400	a	$600
Mandioquinha	"	1$000	a	1$600
Mostarda	Maço	$200	a	$300
Nabo francês c/3 cab.	"	$400	a	$600
Nabo Japonês c/6 cab.	"	$600	a	1$200
Pepino Japonês	Um	$400	a	$600
Pimentão doce, grande	Dúzia	$500	a	1$000
Palmito doce de 1.a	Um	1$800	a	2$000
Palmito doce de 2.a	"	1$500	a	1$800
Palmito doce de 3.a	"	1$000	a	1$200
Repolho Rio Grande (liso)	"	$300	a	$600
Reponho Crespo	"	$500	a	$800
Rabanete Italiano c/24 cab. ...	Maço	$500	a	$600
Vagem Manteiga	Quilo	$800	a	1$600
Vagem Rasteira	"	$700	a	1$400
Xuxu	Dúzia	1$400	a	2$000
Salsa verde comum	Maço	$200	a	$300
Tomate redondo verm. especial	Quilo	1$200	a	1$600
Tomate redondo verm. 1.a ...	"	$800	a	1$200
Tomate redondo verm. 2.a ...	"	$600	a	$800
Tomate redonda verm. 3.a ...	"	$600		

元ブラジル日本人會及聖市日本人會取扱ひたる國防献金及恤兵品献納に對し左記各位宛感謝状便宜當館に於て之が配布を爲す事と致したるに付該當者は献納年月日金額及現住所を明記の上至急御申出ありたし

在聖市 大日本帝國總領事館
Consulado Geral do Japão
Caixa Postal, 1167 - São Paulo

陸軍大臣感謝状
昭和十三年十一月

上バタリヤ小學校兒童一同
モーロ・アグード 二枚
聯合日本人會
アミザーデ植民地 二枚
カイシヤ・デ・アグア日本人會
チヤクチンガ日本人會
コレキンニョ青年會
バラマンサ植民地
宜化會
セードロ日本人會
日ノ出植民地
アルト・サン・ミゲル・カベセイラ・サンミゲル日本人會
イベラー日本人會
桂日本人會
アンナデイアス日本人會
イタリリ日本人會
旭植民地
タバチンガ聯合日本人會
バイネーラ日本人會
アリリ植民地日本人會 二枚
サンタエウドニア日本人會
イピグア日本人會
パルミツタール日本人會
アルトパルミツタル日本人會
アレタレン日本人會 二枚
ジヤンガーダ小學校
ソウヴラ自治會
中島健吾　伊丹
安本靜子　錦戸
人見武比古　小田八郎
上田政子　藤田實
藤田善市　小松松太郎
中村　工藤茂
佐々木廣美　松浦
松森　上村
小林紆平　平良
マカウーバス日本人會
サンタ・リータ耕地
サンタ・マリア耕地石野
比嘉重徳
高山植民地
朝日植民地
フレゲジアドオ日本人會
ラポザ・タパーレス日本人會
アミザーデ植民地
トレス・ポンテ植民地
イデアル植民地
明徳會
タイパス植民地
日ノ出小學校

大藏大臣感謝状
昭和十三年八月一日

渡邊信一　浦谷佐次郎
水谷綮市　緒方末彦
崎濱秀先　小西吉太郎
南谷徳次郎　吉田登
田中治作　山根正人
宮本寅彦　羽田於次郎
木村美太郎　森田吉太郎
四元祐盛　二宮事一

大藏大臣感謝状
昭和十年八月一日

藤本榮　松本薫
丸山英雄　熊谷
ユークリデス・ゴンサルベス・デ・オリベイラ
エディスパッシイ　時松光雄
西村洋裁學院　口石精吉
田邊亮一　曾根五郎
日野旭之郎　澤村
岡伊之助　三宮隆治
カタンヅーバ月掛國防献金團
堀江清　小川正男二枚
マノエルファリオ　島田末松
鷲見喜三　梼田仁三郎
吉崎増雄　大野七郎
上田順一　新海龍二
小林良定　杉山博
中村直記　宮崎宇太郎
丸藤義成　篠崎二三四
杉本豊市　丸山伯男
北川與一　久保井正之
田淵久吉　森友衛
遠山定治　時松義雄
坂本安太郎　間高稲子
太田六郎　吉本大治郎
三上誠一　與儀次郎
宮平清吉　西野義平
山下忠蔵　福田勝
内林永和　中路貞喜
安田孫太郎　杉本義信
堀恒平　嵐正男
井芹勝彦　奥田啓
伊藤強　錦戸長松
福山米太　伊東勳
ヴイクトリヤ青年團
モーロ・レドンド青年會
ジュンジアイーレチロ青年會
サンタ・イレーネ小學校
日勝青年會
ベルドン青年會
誠友會
ツルグナ小學校
モコーコ耕地在住者
ドトール・リーヴアス小學校
サントアントニオ植民地學校
ヴルチーラ植民地在住者
ラランジヤル耕地在住者
リオ・ベケーノ青年會
リオ・ド・ペイシエ日本人會
アグア・リンパ青年會
エスペランサ耕地
リオ・ド・ペイシエ希望青年會
サンパウロ愛國同志會
サンタ・レネレ第六區青年會
バーラ・グランデ小學校
タンキ植民地小學校
同青年會
サンタ・イネス青年會
ジヤンガイダ小學校
ロツサ・グランデ青年會
フロレスタ青年會
同女子青年會
成美青年會
サン・パウロ女子撫子會
ピネーロス女子青年會
コレゴ・ナツセンテ小學校
コツケーロ植民地在住者
アジヤ植民地青年會
レノポリス日本人會
コルギンニョ青年會
アグア・ペレーザ青年會
ガララペス日本人會
ピケロビー青年團
サンパウロ文化植民地青年會
カフエザール青年會
昭生小學校
グワルリヨス日本人會
ロレーナ日本人會
ヴアルゼーア青年會
ジヨゼ・テオドロ育英青年會
スザノ中央青年會
アグードス町在住者
常盤青年會